

平成26年度少子対策・子育て支援に関する県民意識調査結果

1 調査目的

県民が求める少子対策・子育て支援に対する意見を、性別、年齢（年代）別、地域別ごとに調査・分析し、今後の少子対策・子育て支援に係る県の施策を検討する資料とする。

2 調査概要

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20～49歳までの男女
- (3) 調査方法 ㈱神戸新聞地域創造に委託（企画提案協議により決定）
インターネットによるアンケート調査
- (4) 調査時期 平成26年6月26日（木）～7月1日（火）
- (5) 設問数 37問
- (6) サンプル数 3,000サンプル
- (7) 集計方法 地域ごとの回収数について、県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計（ウェイトバック集計）を実施。
- (8) 地域区分 県民局毎

3 設問項目

■ 回答者の属性

- 問1 性別
- 問2 年齢
- 問3 居住地域
- 問4 職業
- 問5 家族構成
- 問6 同居者の人数
- 問7 既婚・未婚の別
- 問8 配偶者の就業状況
- 問9 世帯年収
- 問10 子どもの人数
- 問11 子どもの年齢

■ 結婚観・子育て観

- 問12 結婚願望
- 問13 未婚・独身でいる理由
- 問14 結婚のイメージ
- 問15 子育てのイメージ

- 問 16 少子化の要因
- 問 17 出産・子育てなどで不十分だと思う支援制度
- 問 18 子どもに体験させておきたいと思うこと

■ 子どもを育てる上での課題・不安について

- 問 19 子育てにかかる費用
- 問 20 子育てに悩んだ時の相談先
- 問 21 子どもの不登校・ひきこもり対策
- 問 22 子どものいじめ問題への対応
- 問 23 安全・安心なまちづくりのために必要なこと

■ 子育てと仕事の両立について

- 問 24 理想と実際の子どもの数の差
- 問 25 理想よりも実際の子どもの数が少ない理由
- 問 26 女性が子育てをしながら働く際に困難なこと
- 問 27 女性が再就職する際の理想の働き方
- 問 28 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと
- 問 29 子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度

■ 保育施設などの利用について

- 問 30 幼稚園や保育施設の利用状況
- 問 31 子どもを預けたことがある施設
- 問 32 保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと
- 問 33 放課後児童クラブの利用状況
- 問 34 放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと
- 問 35 放課後児童指導員への要望

■ 意見・要望

- 問 36 充実してほしい支援策
- 問 37 意見・要望【自由記載】

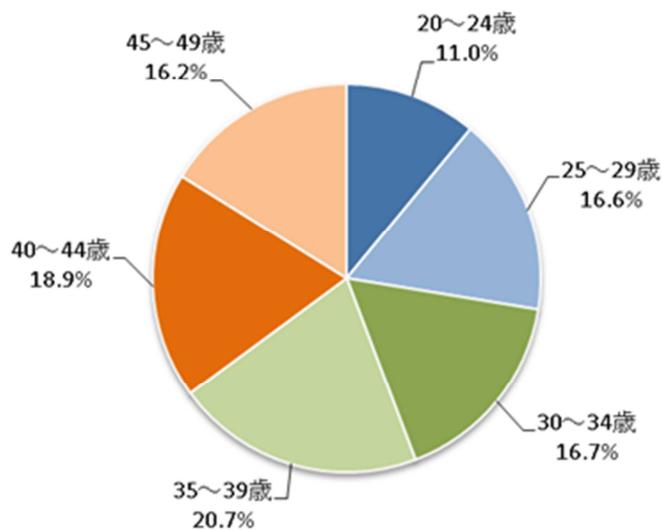
4 調査結果

【回答者の属性】

■問1 性別 男性 49.1%、女性 50.9%

■問2 年齢

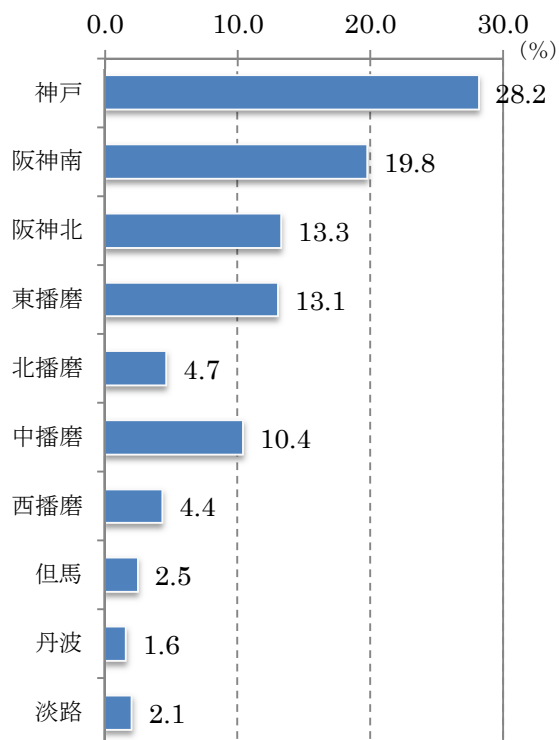
■年齢(全員:n=3,000)



年齢は「35～39歳」が20.7%と最も多く、次いで「40～44歳」が18.9%と続いている。
また、年代は“20代”をあわせて27.6%、“30代”をあわせて37.4%、“40代”をあわせて35.1%となっている。

■問3 居住地域

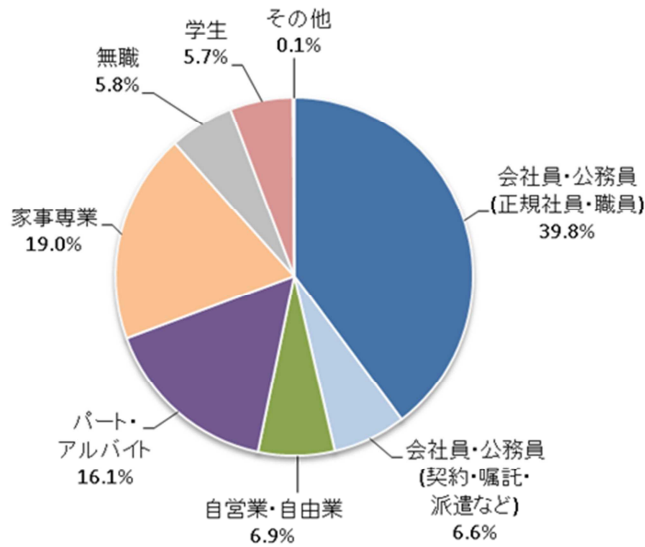
■居住地域・県民局単位(全員:n=3,000)



県民局単位でみると、「神戸」が28.2%と最も多く、以下、「阪神南」(19.8%)、「阪神北」(13.3%)、「東播磨」(13.1%)、「中播磨」(10.4%)、「北播磨」(4.7%)、「西播磨」(4.4%)、「但馬」(2.5%)、「淡路」(2.1%)、「丹波」(1.6%)の順となっている。

■問4 職業

■職業(全員:n=3,000)



職業は「会社員・公務員(正規社員・職員)」が39.8%と約4割を占めて最も多く、以下、「家事専業」が19.0%、「パート・アルバイト」が16.1%と続いている。

働いて収入を得ている人(以下、有職者)は全体の約7割(69.4%)を占めており、収入を得ていない人(以下、無職者)は3割(30.5%)となっている。

■問5 家族構成

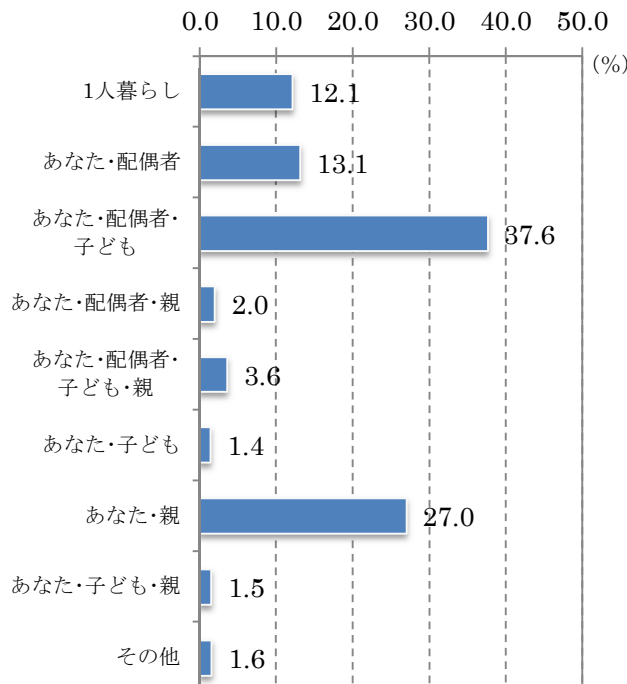
【全体】

- ・家族構成は「あなた・配偶者・子ども」が37.6%と最も多く、次いで「あなた・親」が27.0%、「あなた・配偶者」が13.1%、「1人暮らし」が12.1%と続く。

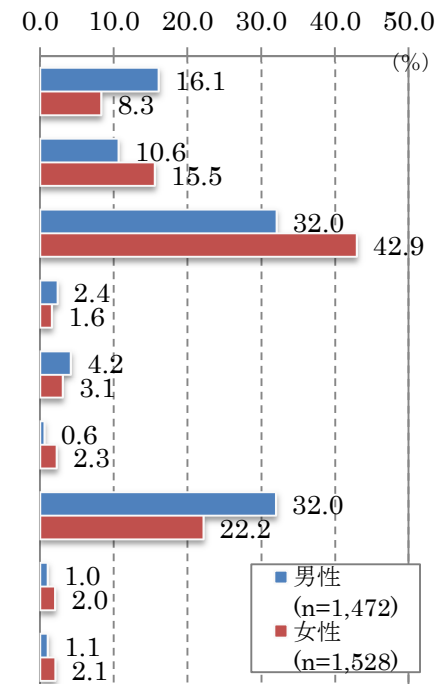
【性別】

- ・男性は「あなた・配偶者・子ども」と「あなた・親」(32.0%)が並んで最も多くなっている。
- ・また、男性は「1人暮らし」が16.1%となっており、女性(8.3%)と比べて多くなっている。
- ・女性は「あなた・配偶者・子ども」が42.9%となっており、男性(32.0%)よりも多くなっている。

■家族構成(全員:n=3,000)



■性別にみた家族構成(全員)

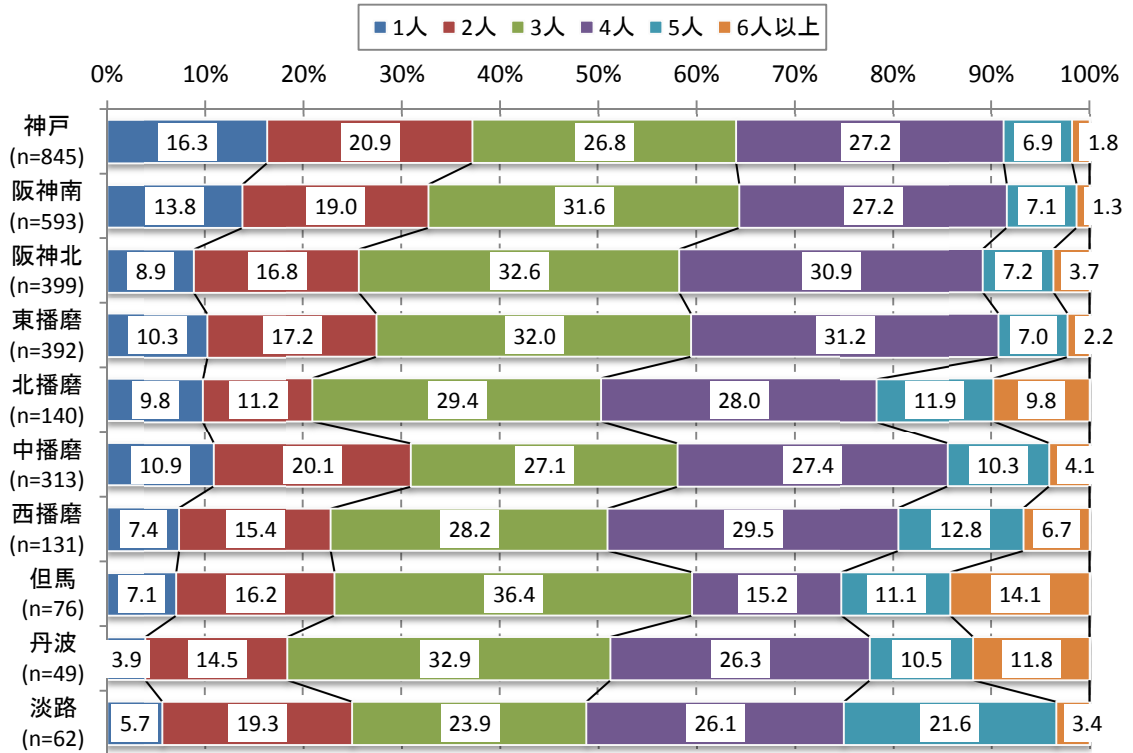


問6 同居者の人数

【地域別】

- ・但馬と淡路では“5人以上”の割合が比較的高く、どちらも4分の1以上を占めている。
- ・神戸や阪神南、阪神北、東播磨といった比較的人口の多い地域では、“5人以上”は1割程度と少なくなっている。

■地域別にみた同居人数(全員)

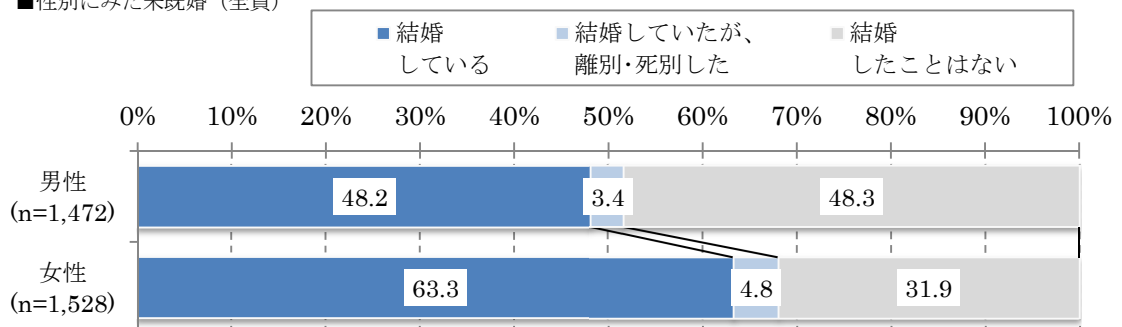


問7 既婚・未婚の別

【性別】

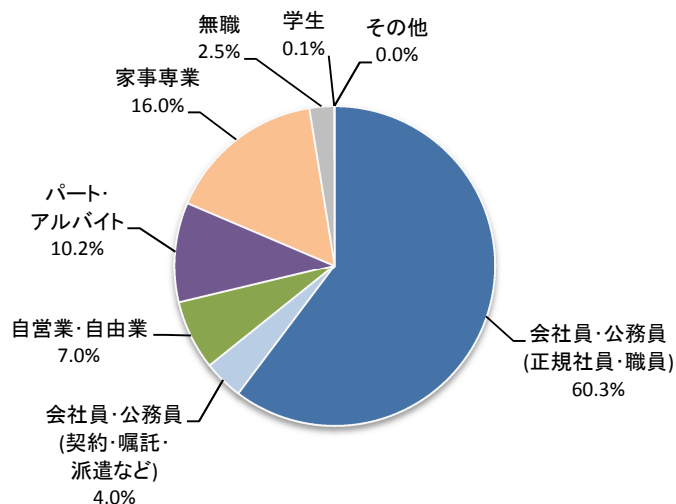
- ・男性は「結婚している」が48.2%、「結婚したことはない」が48.3%となっており、ほぼ同じ割合となっている。
- ・女性は「結婚している」が63.3%と6割以上を占めて多く、男性（48.2%）よりも15ポイント以上多くなっている。

■性別にみた未既婚(全員)

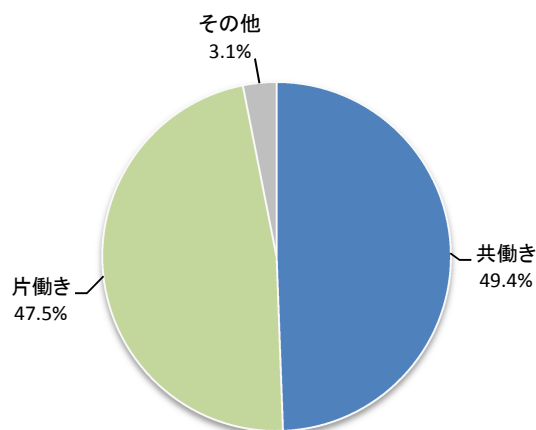


■問8 配偶者の就業状況

■配偶者の就業状況(既婚者のみ:n=1,677)

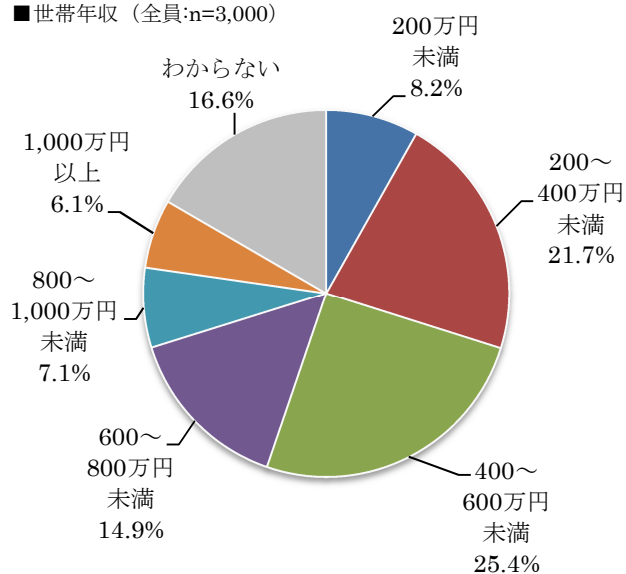


■夫婦の就業状況(既婚者のみ:n=1,677)



■問9 世帯年収

■世帯年収(全員:n=3,000)

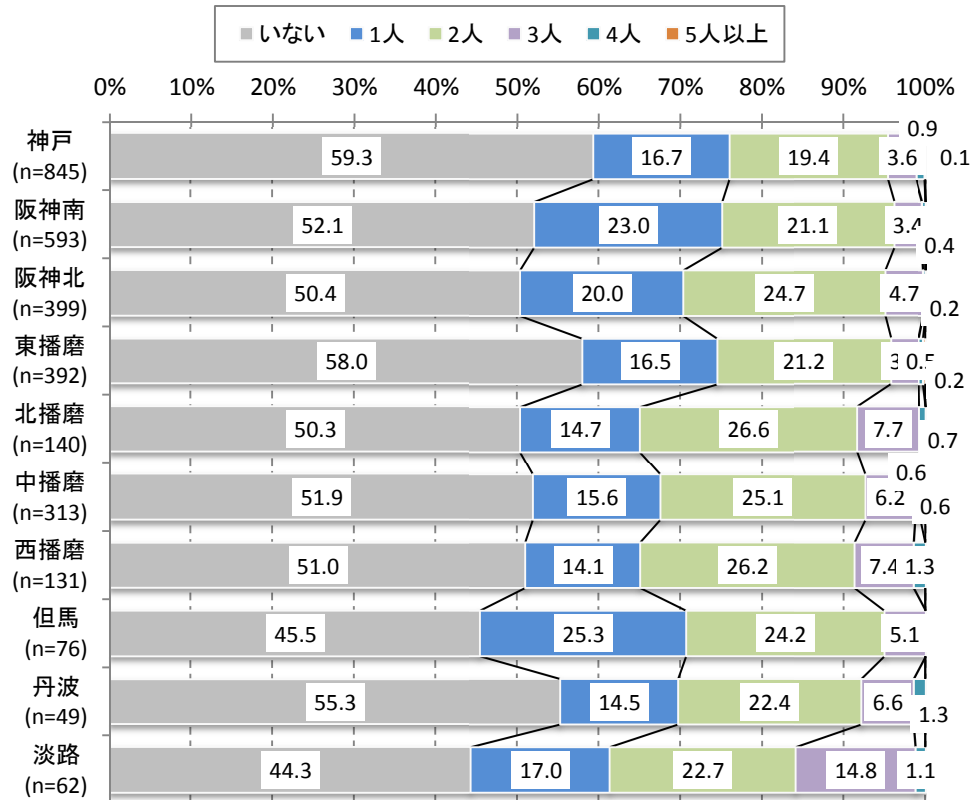


世帯年収は「400～600万円未満」が25.4%と最も多く、次いで「200～400万円未満」が21.7%と続く。

以下、「600～800万円未満」が14.9%、「200万円未満」が8.2%、「800～1,000万円未満」が7.1%、「1,000万円以上」が6.1%の順となっており、「わからない」が16.6%であった

問 10 子どもの人数

■地域別にみた子どもの人数(全員)

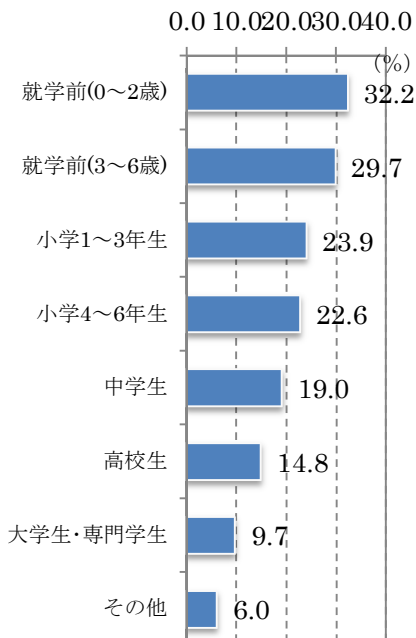


問 11 子どもの年齢

【全体】

・各年齢の子どもについて、1人でも“いる”と回答した割合（※左下グラフ参照）をみると、「就学前（0～2歳）」が32.2%と最も多く、以下、「就学前（3～6歳）」が29.7%、「小学1～3年生」が23.9%、「小学4～6年生」が22.6%と年齢の低い順に多くなっている。

・右下の数表は、各年齢の子どもの人数の内訳を表している。



■各年齢の子どもの人数【単一回答】
(子どもがいる人のみ:n=1,373)

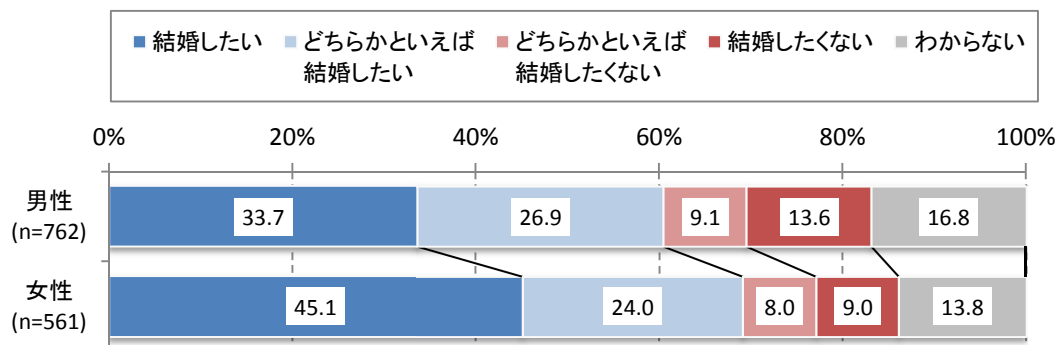
	1人	2人	3人	4人	5人以上
就学前(0～2歳)	28.9	3.3	0.0	0.0	0.0
就学前(3～6歳)	26.0	3.7	0.1	0.0	0.0
小学1～3年生	21.1	2.6	0.1	0.0	0.1
小学4～6年生	19.6	2.9	0.1	0.0	0.2
中学生	16.2	2.4	0.3	0.0	0.2
高校生	12.5	1.9	0.2	0.1	0.2
大学生・専門学生	7.6	1.9	0.0	0.0	0.2
その他	3.6	2.0	0.3	0.0	0.2

【結婚観・子育て観】

■問12 結婚願望

女性は「結婚したい」（「結婚したい」＋「どちらかといえば結婚したい」）があわせて69.1%と約7割を占めており、男性（60.6%）と比べて多くなっている。

■性別にみた結婚願望(独身者のみ)



■問13 未婚・独身でいる理由

【全体】

- ・未婚、独身でいる理由は「いい相手が見つからない」が45.2%で最も多くなっている。
- ・以下、「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」(27.8%)と「未婚または独身の方が気楽」(25.2%)がほぼ並んで続いている。

【性別】

- ・男女ともに「いい相手が見つからない」が最も多く、特に女性で51.7%と半数を超えて多くなっている。
- ・一方、男性は「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」が33.8%となっており、女性(19.5%)と比べて多くなっている。

【性・年代別】

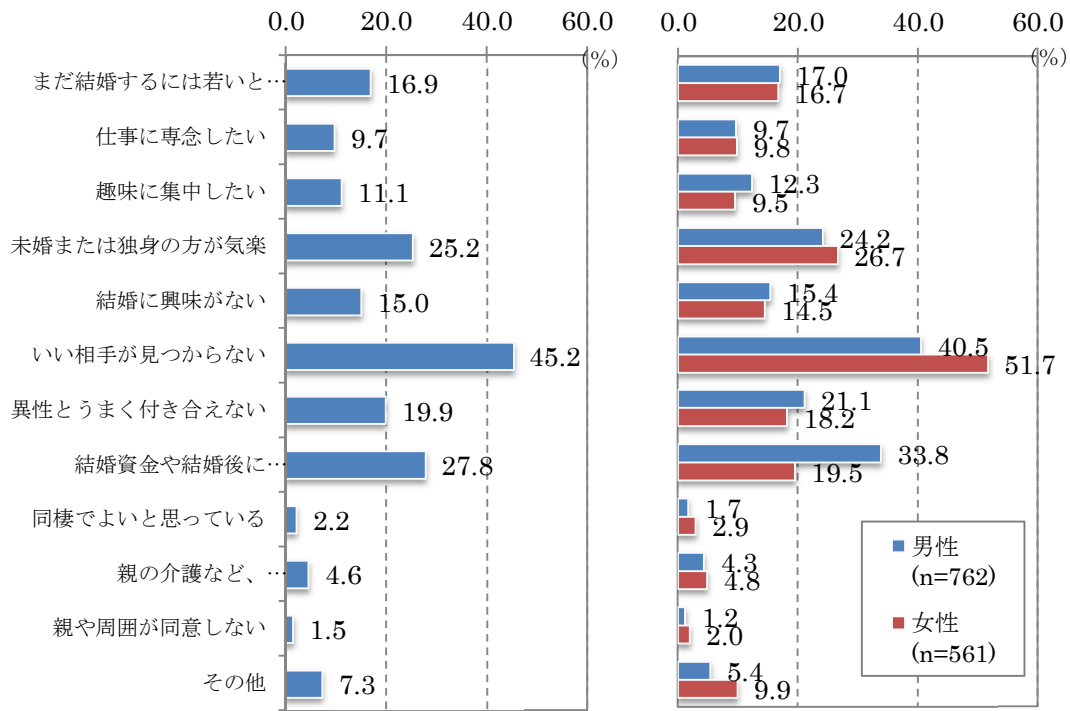
- ・女性30～40代で「いい相手が見つからない」が比較的多く、特に女性30代では61.2%と多くなっている。
- ・男性20代は「まだ結婚するには若いと思う」が36.6%となっており、最も多くなっている。
- ・男性30代は「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」が39.4%となっており、比較的多くなっている。
- ・男女とも年代の若い層では「仕事に専念したい」や「趣味に集中したい」が比較的多く、年代の高い層ほど「未婚または独身の方が気楽」や「結婚に興味がない」が多くなっている。

【地域別】

- ・ほぼすべての地域で「いい相手が見つからない」が最も多く、淡路では75.0%と特に多くなっている。
- ・また、淡路では「未婚または独身の方が気楽」が46.4%となっており、他の地域に比べて多くなっている。
- ・但馬では「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」が40.0%となっており、最も多くなっている。

■未婚・独身でいる理由（独身者のみ:n=1,323）

■性別にみた未婚・独身でいる理由（独身者のみ）



■性・年代別、地域別にみた未婚・独身でいる理由（独身者のみ）		(複数回答・%)														
		思 ま だ 結 婚 す る に は 若 い と	仕 事 に 専 念 し た い	趣 味 に 集 中 し た い	気 楽 な 未 婚 ま た は 独 身 の 方 が	結 婚 に 興 味 が な い	い い 相 手 が 見 つ か ら な い	付 き 合 え な い	異 性 と う ま く 付 き 合 え な い	経 済 的 な 不 安 が あ る	結 婚 資 金 や 結 婚 後 に	同 棲 で よ い と 思 っ て い る	家 庭 の 介 護 な ど、	親 の 介 護 な ど、 家 庭 の 事 情 が あ る	親 や 周 圍 が 同 意 し な い	そ の 他
性・年代別	男性-20代 (n=338)	36.6	13.7	16.1	19.4	12.6	33.3	21.3	29.6	0.9	1.6	1.5	4.7			
	男性-30代 (n=264)	2.3	9.4	12.2	26.6	16.4	46.6	20.6	39.0	1.2	5.6	1.4	6.3			
	男性-40代 (n=161)	0.0	1.8	4.6	30.2	19.7	45.6	21.5	34.4	4.1	8.0	0.0	5.1			
	女性-20代 (n=248)	37.4	15.3	14.2	16.4	8.3	43.3	21.7	25.0	2.1	1.6	2.9	8.0			
	女性-30代 (n=180)	0.6	8.0	8.5	30.5	16.6	61.2	20.3	19.6	2.2	7.2	1.1	9.6			
	女性-40代 (n=133)	0.0	2.1	2.1	40.7	23.1	54.6	8.7	9.0	5.3	7.7	1.3	14.0			
地域別	神戸 (n=409)	19.9	9.8	10.3	24.9	13.5	45.4	17.8	26.0	3.2	3.4	1.1	7.7			
	阪神南 (n=242)	24.4	11.3	8.9	23.9	17.4	42.3	22.1	26.3	1.4	5.6	1.4	7.0			
	阪神北 (n=154)	19.9	10.9	15.4	23.1	14.1	44.9	15.4	25.0	1.9	5.1	1.3	7.1			
	東播磨 (n=198)	9.9	9.4	12.4	25.2	15.8	45.5	21.8	27.2	0.0	4.5	2.0	6.4			
	北播磨 (n=63)	6.3	10.9	12.5	25.0	14.1	54.7	18.8	26.6	3.1	4.7	3.1	9.4			
	中播磨 (n=129)	10.0	10.0	10.7	22.9	10.0	48.6	17.9	34.3	4.3	3.6	1.4	5.7			
	西播磨 (n=56)	21.9	6.2	14.1	31.2	26.6	39.1	26.6	31.2	1.6	3.1	3.1	4.7			
	但馬 (n=31)	10.0	5.0	7.5	32.5	20.0	25.0	30.0	40.0	2.5	12.5	2.5	15.0			
	丹波 (n=22)	2.9	2.9	8.8	29.4	14.7	47.1	20.6	32.4	0.0	5.9	0.0	14.7			
	淡路 (n=20)	0.0	3.6	7.1	46.4	10.7	75.0	32.1	35.7	3.6	7.1	0.0	3.6			

■問 14 結婚のイメージ

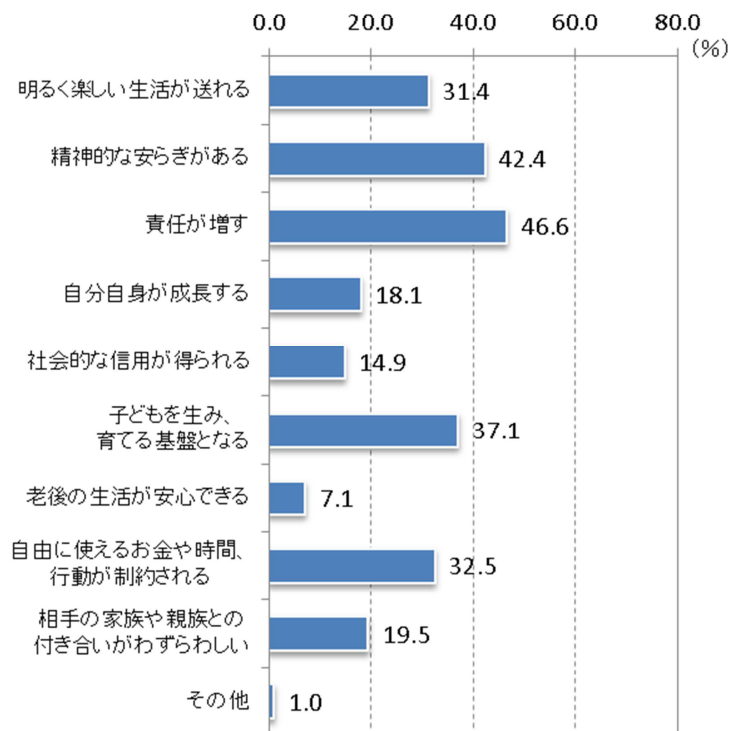
【全体】

- ・結婚のイメージは「責任が増す」が46.6%と最も多く、次いで「精神的な安らぎがある」が42.4%、「子どもを生み、育てる基盤となる」が37.1%、「自由に使えるお金や時間、行動が制約される」が32.5%、「明るく楽しい生活が送れる」が31.4%と続く。

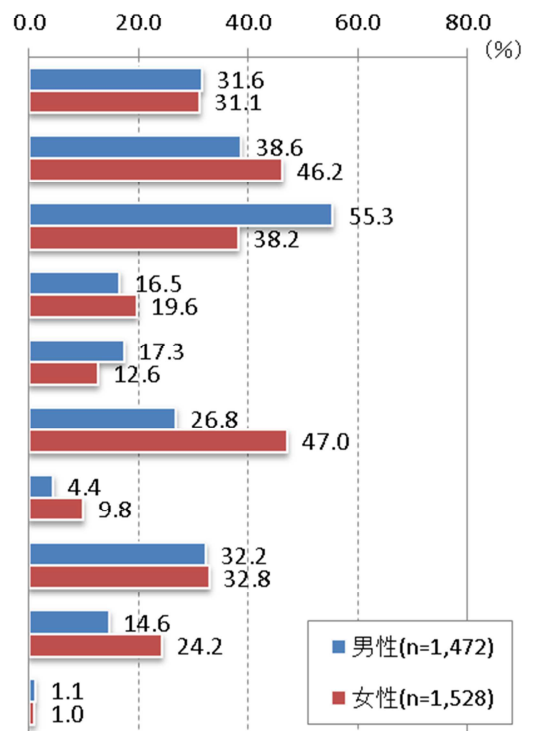
【性別】

- ・男性は「責任が増す」が55.3%と半数を超えており、女性（38.2%）より多くなっている。
- ・一方、女性は「子どもを生み、育てる基盤となる」が47.0%、「精神的な安らぎがある」が46.2%とほぼ並んで多く、「子どもを生み、育てる基盤となる」は男性（26.8%）と比べて20ポイント以上多くなっている。

■結婚のイメージ(全員:n=3,000)



■性別にみた結婚のイメージ(全員)



■問 15 子育てのイメージ

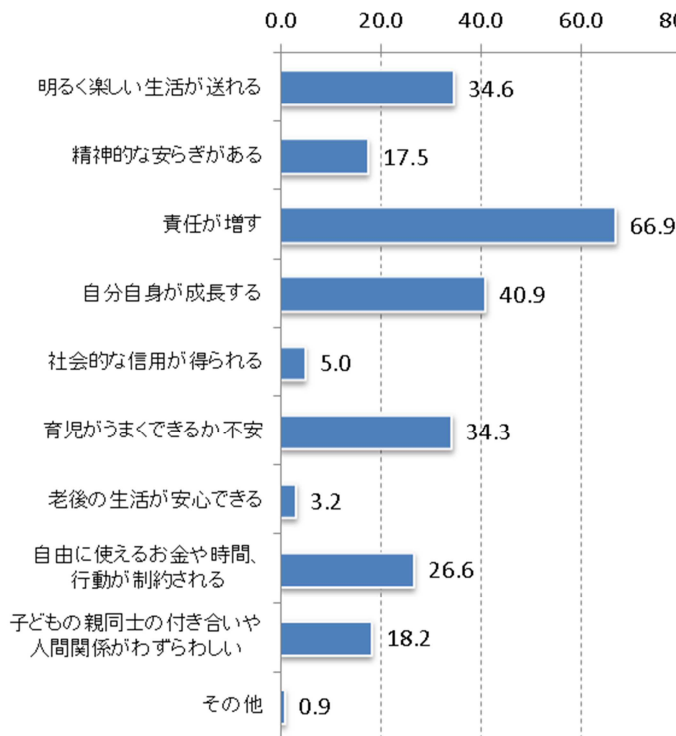
【全体】

- ・子育てのイメージは「責任が増す」が66.9%と最も多く、以下、「自分自身が成長する」が40.9%、「明るく楽しい生活が送れる」が34.6%、「育児がうまくできるか不安」が34.3%と続く。

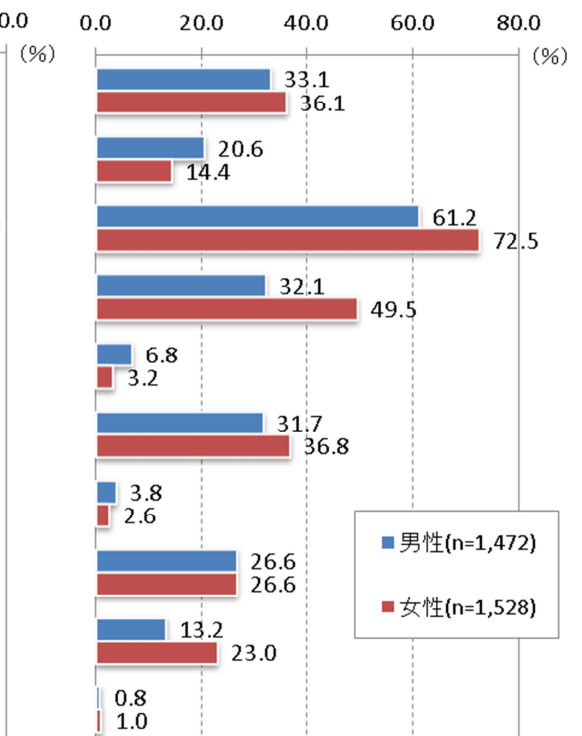
【性別】

- ・男女ともに「責任が増す」が最も多く、特に女性で72.5%と7割を超えて多くなっている。
- ・また、女性は「自分自身が成長する」(49.5%)や「子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい」(23.0%)が男性と比べて多くなっている。

■子育てのイメージ(全員:n=3,000)



■性別にみた子育てのイメージ(全員)



■ 問 16 少子化の要因

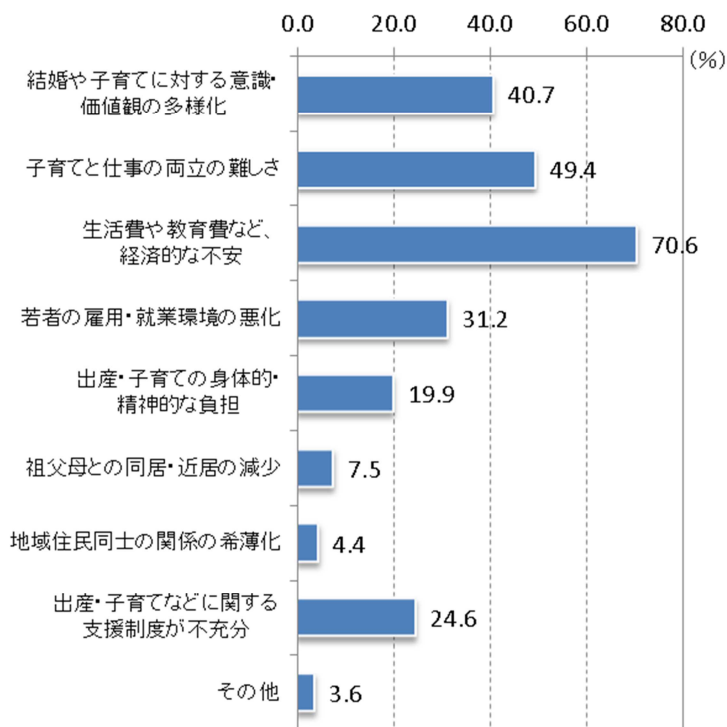
【全体】

- ・少子化の要因は「生活費や教育費など、経済的な不安」が70.6%と最も多く、以下、「子育てと仕事の両立の難しさ」(49.4%)や「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」(40.7%)、「若者の雇用・就業環境の悪化」(31.2%)が続いて多くなっている。

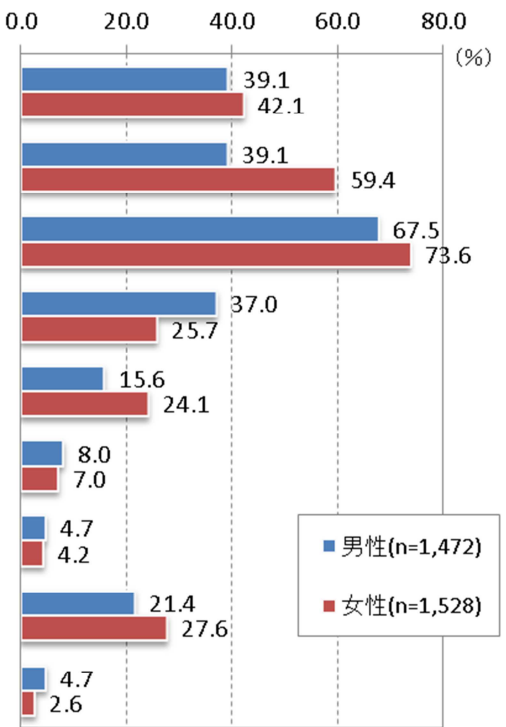
【性別】

- ・女性は「子育てと仕事の両立の難しさ」が59.4%となっており、男性(39.1%)よりも20ポイント以上多くなっている。
- ・また、女性は「出産・子育てなどに関する支援制度が不十分」(24.6%)や「出産・子育ての身体的・精神的な負担」(24.1%)といった“出産・子育て”に関する項目が男性と比べて多くなっている。
- ・一方、男性は「若者の雇用・就業環境の悪化」が37.0%となっており、女性(25.7%)と比べて多くなっている。

■ 少子化の要因(全員:n=3,000)



■ 性別にみた少子化の要因(全員)



【性・年代別】

- ・男女とも「子育てと仕事の両立の難しさ」は年代の若い層ほど多く、特に女性20代では65.7%となっており、比較的多くなっている。
- ・男性20代は「若者の雇用・就業環境の悪化」が41.1%となっており、比較的多くなっている。
- ・女性40代は「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」が47.7%となっており、比較的多くなっている。

【地域別】

- ・西播磨では「結婚や子育てに関する意識・価値観の多様化」が50.3%と半数を超えており、他の地域に比べて多くなっている。
- ・但馬と丹波では「子育てと仕事の両立の難しさ」が比較的多くなっている。

■性・年代別、地域別にみた少子化の要因(全員)		(複数回答・%)								
		結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化	子育てと仕事の両立の難しさ	生活費や教育費など、経済的な不安	若者の雇用・就業環境の悪化	出産・子育ての身体的・精神的な負担	祖父母との同居・近居の減少	地域住民同士の関係の希薄化	出産・子育てなどに関する支援制度が不十分	その他
性・年代別	男性-20代 (n=409)	38.3	43.4	64.2	41.1	17.9	6.9	3.6	19.4	3.0
	男性-30代 (n=551)	38.6	36.9	68.7	38.1	13.8	8.8	5.2	24.1	5.1
	男性-40代 (n=512)	40.5	38.0	68.9	32.5	15.8	7.9	4.9	20.2	5.6
	女性-20代 (n=418)	39.4	65.7	72.8	26.6	21.9	8.6	3.8	30.2	1.7
	女性-30代 (n=570)	38.9	60.6	77.4	24.7	24.0	5.6	3.9	30.8	2.1
	女性-40代 (n=540)	47.7	53.2	70.1	26.1	25.8	7.3	4.9	22.3	3.9
地域別	神戸 (n=845)	42.6	48.7	69.1	32.9	19.5	8.9	3.2	23.9	3.7
	阪神南 (n=593)	40.8	50.8	73.9	30.3	20.7	5.2	4.2	22.8	3.1
	阪神北 (n=399)	38.5	50.4	74.1	33.1	19.3	6.9	6.9	28.1	2.2
	東播磨 (n=392)	36.0	52.2	69.5	32.2	18.7	8.0	4.5	24.2	3.0
	北播磨 (n=140)	39.9	42.0	67.8	30.1	28.0	7.0	2.1	22.4	7.7
	中播磨 (n=313)	40.7	50.4	68.7	25.7	17.1	6.8	5.3	26.3	3.2
	西播磨 (n=131)	50.3	37.6	69.8	30.2	22.1	10.1	6.0	22.1	4.0
	但馬 (n=76)	41.4	58.6	64.6	33.3	14.1	7.1	5.1	30.3	8.1
	丹波 (n=49)	38.2	56.6	69.7	23.7	27.6	6.6	5.3	23.7	6.6
	淡路 (n=62)	38.6	43.2	70.5	36.4	21.6	11.4	3.4	26.1	5.7

■問 17 出産・子育てなどで不十分だと思う支援制度

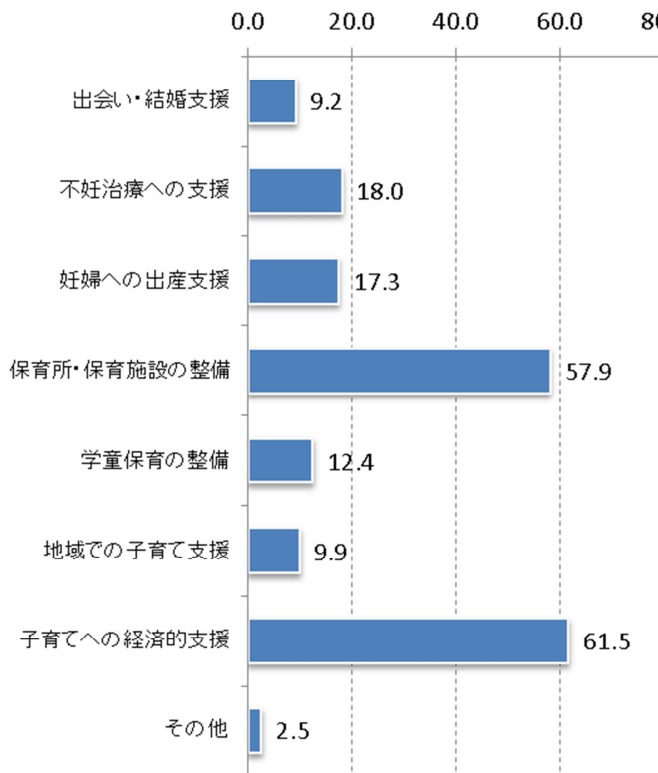
【全体】

出産・子育てなどに関して、不十分だと思う支援制度は「子育てへの経済的支援」が61.5%と最も多く、次いで「保育所・保育施設の整備」が57.9%と多くなっている。以下、少し差が開いて、「不妊治療への支援」(18.0%)や「妊婦への出産支援」(17.3%)といった妊娠・出産に関する支援が続いている。

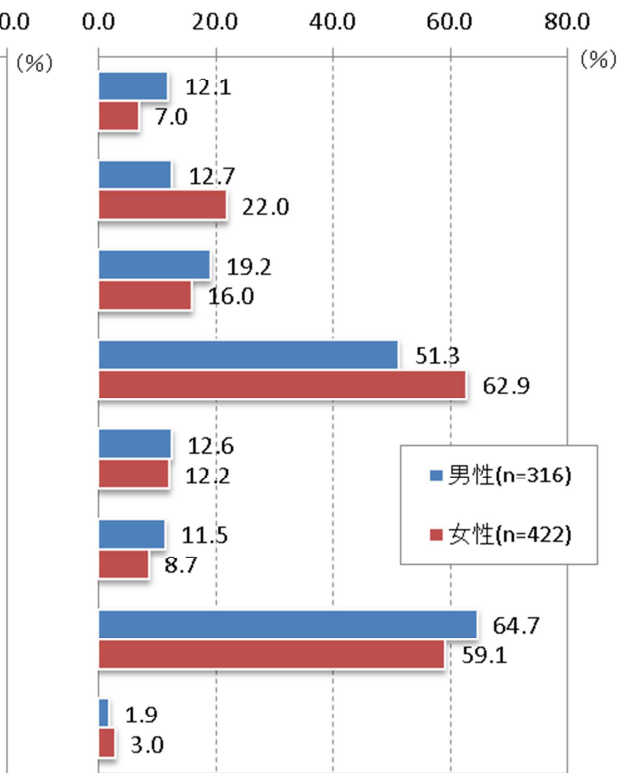
【性別】

男性は「子育てへの経済的支援」(64.7%)、女性は「保育所・保育施設の整備」(62.9%)が最も多くなっている。また、女性は「不妊治療への支援」が22.0%となっており、男性(12.7%)と比べて多くなっている。

■ 不十分だと思う支援制度
(不十分だと回答した人のみ:n=738)



■ 性別にみた不十分だと思う支援制度
(不十分だと回答した人のみ)



【性・年代別】

- ・男性 40代は「子育てへの経済的支援」が73.2%となっており、男性の他の年代と比べても特に多くなっている。
- ・女性 30代は「不妊治療への支援」が26.7%となっており、比較的多くなっている。
- ・男女とも「妊婦への出産支援」は年代の若い層ほど多くみられる。

【地域別】

- ・神戸や阪神南、阪神北、東播磨といった県内でも人口の多い地域では、「保育所・保育施設の整備」が比較的多くなっている。
- ・一方、西播磨と但馬、淡路など比較的人口の少ない地域では、「子育てへの経済的支援」が概ね7割以上となっており、他の地域に比べて多くなっている。
- ・また、西播磨では、「妊婦への出産支援」が36.4%となっており、比較的多くなっている。
- ・丹波では、「不妊治療への支援」が44.4%となっており、他の地域よりも20ポイント以上多くなっている。

■性・年代別、地域別にみた不十分だと思う支援制度(不十分だと回答した人のみ)		(複数回答・%)							
		出会い・結婚支援	不妊治療への支援	妊婦への出産支援	保育所・保育施設の整備	学童保育の整備	地域での子育て支援	子育てへの経済的支援	その他
性・年代別	男性-20代 (n=79)	15.8	11.3	28.1	51.3	10.1	13.4	62.4	0.0
	男性-30代 (n=133)	8.9	14.2	19.9	53.4	14.8	10.4	59.4	2.9
	男性-40代 (n=103)	13.3	11.8	11.5	48.5	11.7	11.4	73.2	2.0
	女性-20代 (n=126)	8.8	17.3	20.2	65.1	8.2	9.4	58.5	3.3
	女性-30代 (n=176)	6.0	26.7	17.1	62.2	11.8	5.4	59.2	3.1
	女性-40代 (n=121)	6.7	20.1	10.0	61.8	17.1	12.9	59.7	2.5
地域別	神戸 (n=202)	10.8	17.2	12.9	60.2	14.5	7.5	62.9	2.7
	阪神南 (n=135)	7.6	22.7	21.8	58.0	8.4	12.6	57.1	1.7
	阪神北 (n=112)	7.9	7.9	16.7	63.2	17.5	13.2	65.8	0.9
	東播磨 (n=95)	10.3	19.6	14.4	63.9	11.3	6.2	54.6	4.1
	北播磨 (n=31)	6.3	18.8	25.0	46.9	9.4	15.6	56.3	3.1
	中播磨 (n=82)	12.4	19.1	18.0	49.4	9.0	10.1	66.3	3.4
	西播磨 (n=29)	3.0	15.2	36.4	48.5	9.1	6.1	72.7	0.0
	但馬 (n=23)	3.3	23.3	3.3	53.3	20.0	16.7	70.0	3.3
	丹波 (n=12)	16.7	44.4	27.8	55.6	16.7	0.0	27.8	5.6
	淡路 (n=16)	8.7	21.7	17.4	47.8	4.3	8.7	69.6	4.3

■問 18 子どもに体験させておきたいと思うこと

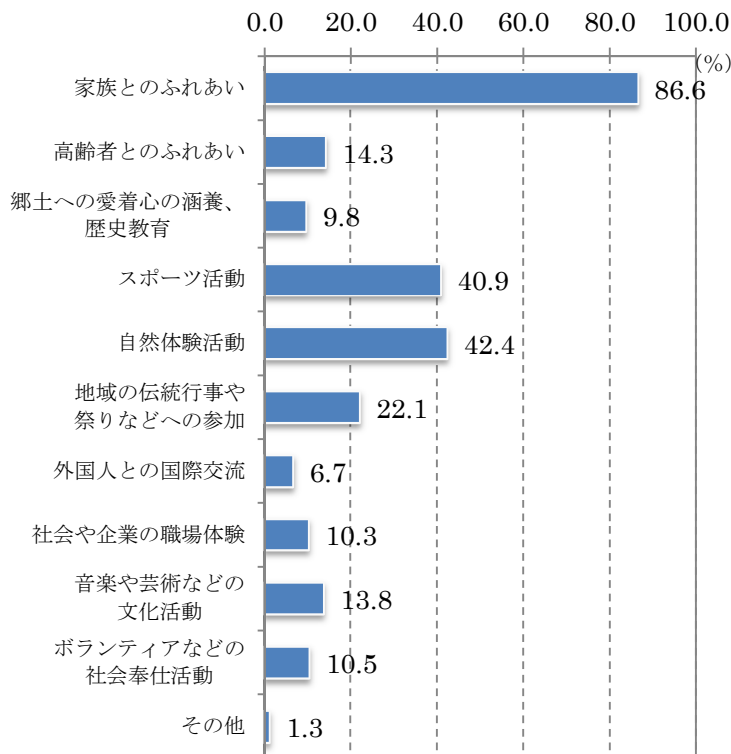
【全体】

- ・子どもに体験させておきたいことは「家族とのふれあい」が86.6%と8割を超えて最も多くなっている。
- ・以下、「自然体験活動」が42.4%、「スポーツ活動」が40.9%、「地域の伝統行事や祭りなどへの参加」が21.1%と続く。

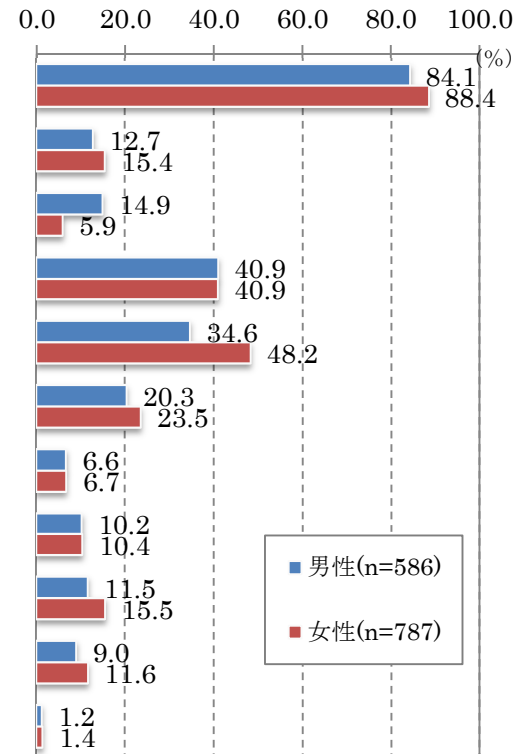
【性別】

- ・女性は「自然体験活動」が48.2%と半数近くとなっており、男性(34.6%)より多くなっている。

■子どもに体験させておきたいこと
(子どもがいる人のみ:n=1,373)



■性別にみた子どもに体験させておきたいこと (子どもがいる人のみ)



【子どもを育てる上での課題・不安について】

■ 問 19 子育てにかかる費用

【全体】

・ 現在負担に感じる費用

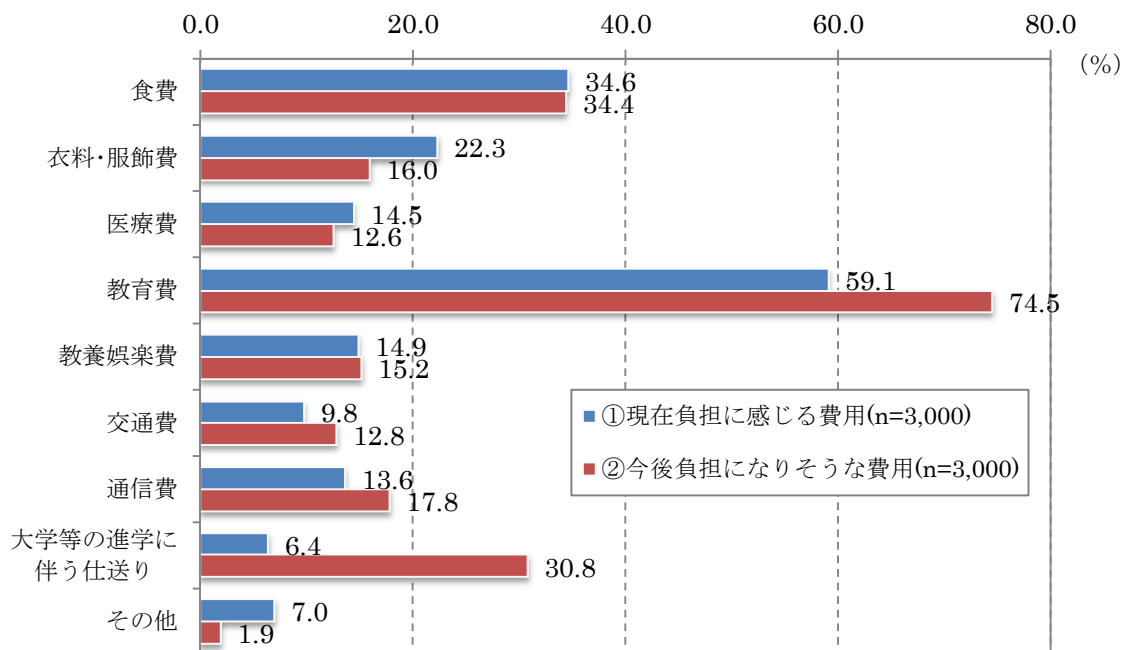
現在負担に感じる費用で最も多いのは「教育費」で59.1%となっており、以下、「食費」(34.6%)、「衣料・服飾費」(22.3%)、「教養娯楽費」(14.9%)、「医療費」(14.5%)と続く。

・ 今後負担になりそうな費用

一方、今後負担に感じる費用で最も多いのは、「教育費」で74.5%となっており、以下、「食費」(34.4%)、「大学等の進学に伴う仕送り」(30.8%)、「通信費」(17.8%)、「衣料・服飾費」(16.0%)と続く。

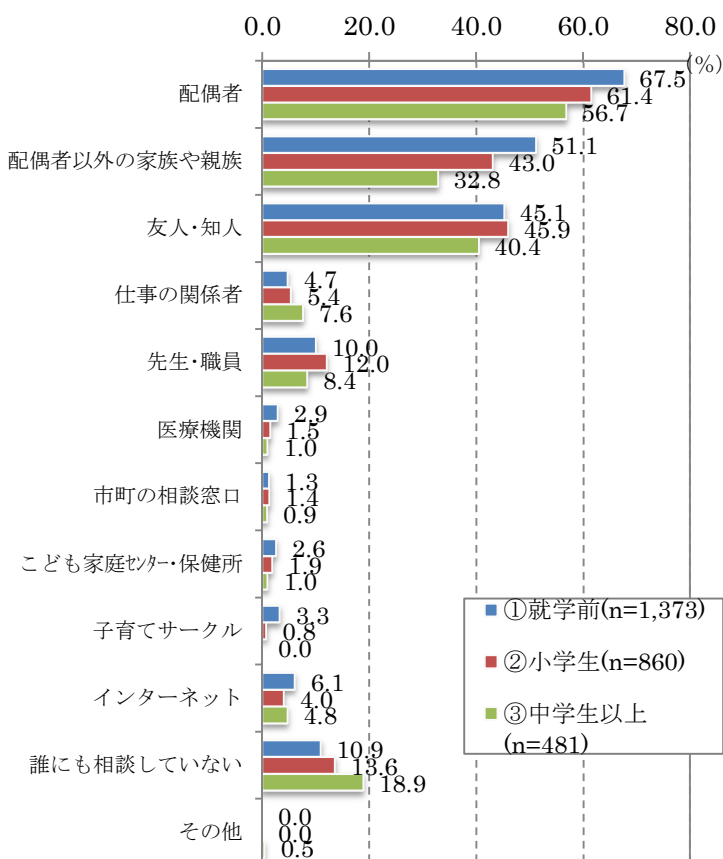
現在と今後で負担に感じる費用の差をみると、現在に多いのは「衣料・服飾費」(6.3ポイント差)で、今後に多いのは「大学等の進学に伴う仕送り」(24.4ポイント差)や「教育費」(15.4ポイント差)となっている。

■子育てにかかる費用（子どもがいる人のみ）



■問 20 子育てに悩んだ時の相談先

■子育てに悩んだ時の相談先
(該当する子どもがいる人のみ)



① 就学前

子育てに悩んだ時の相談先について、子どもが就学前の時は「配偶者」が67.5%と最も多く、以下、「配偶者以外の家族や親族」(51.1%)、「友人・知人」(45.1%)と続く。

② 小学生

子どもが小学生の時は「配偶者」が61.4%と最も多く、次いで、「友人・知人」(45.9%)と「配偶者以外の家族や親族」(43.0%)がほぼ並んで多くなっている。

③ 中学生以上

子どもが中学生以上の時は「配偶者」が56.7%と最も多く、以下、「友人・知人」(40.4%)、「配偶者以外の家族や親族」(32.8%)と続く。

■子どもの年齢に関わらず、子育てに悩んだ時の相談先は「配偶者」や「配偶者以外の家族や親族」、「友人・知人」が中心となっている。

■問 21 子どもの不登校・ひきこもり対策

【全体】

子どもの不登校・ひきこもり対策は「スクールカウンセラーの設置」が 38.7%、「相談窓口の拡充」が 36.9%とほぼ並んで多く、次いで「専門機関による訪問相談の実施」が 28.8%と続いており、第三者への相談が必要だと考える人が多くなっている。

以下、「教員の指導体制の徹底・強化」(28.7%)、「教員と児童生徒・保護者の面談の実施」(23.0%)、「教員のためのカウンセリングマインド研修の実施」(21.3%)が続く。

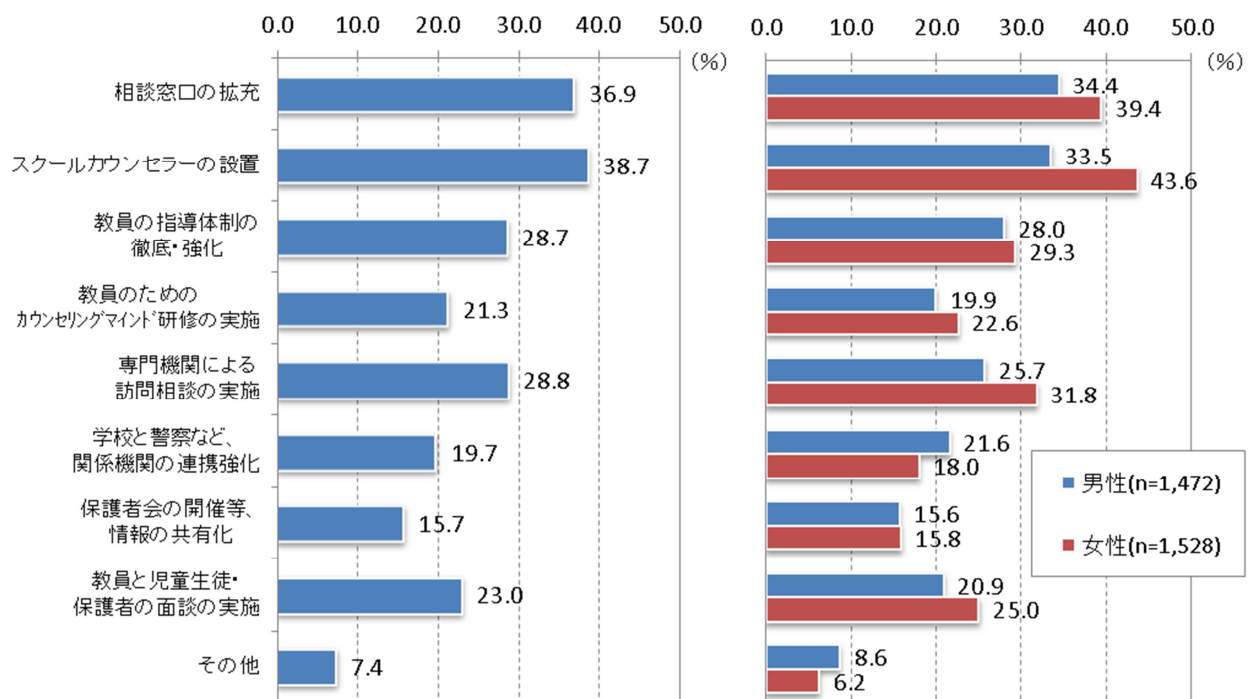
【性別】

女性は「スクールカウンセラーの設置」(43.6%)や「相談窓口の拡充」(39.4%)、「専門機関による訪問相談の実施」(31.8%)など、ほぼすべての項目で男性よりも多くなっている。

一方、男性は「学校と警察など、関係機関の連携強化」が 21.6%となっており、唯一、女性(18.0%)より多くなっている。

■子どもの不登校・ひきこもり対策(全員:n=3,000)

■性別にみた子どもの不登校・ひきこもり対策(全員)



■問 22 子どものいじめ問題への対応

【全体】

子どものいじめ問題への対策は、「児童生徒へのいじめ問題に対する教育の強化」が43.8%と最も多く、以下、「教員の指導体制の徹底・強化」(33.8%)、「スクールカウンセラーの設置」(31.5%)、「保護者へのいじめ問題に対する意識啓発」(30.3%)、「学校と警察など、関係機関の連携強化」(30.2%)、「相談窓口の強化」(29.6%)がほぼ並んで続いている。

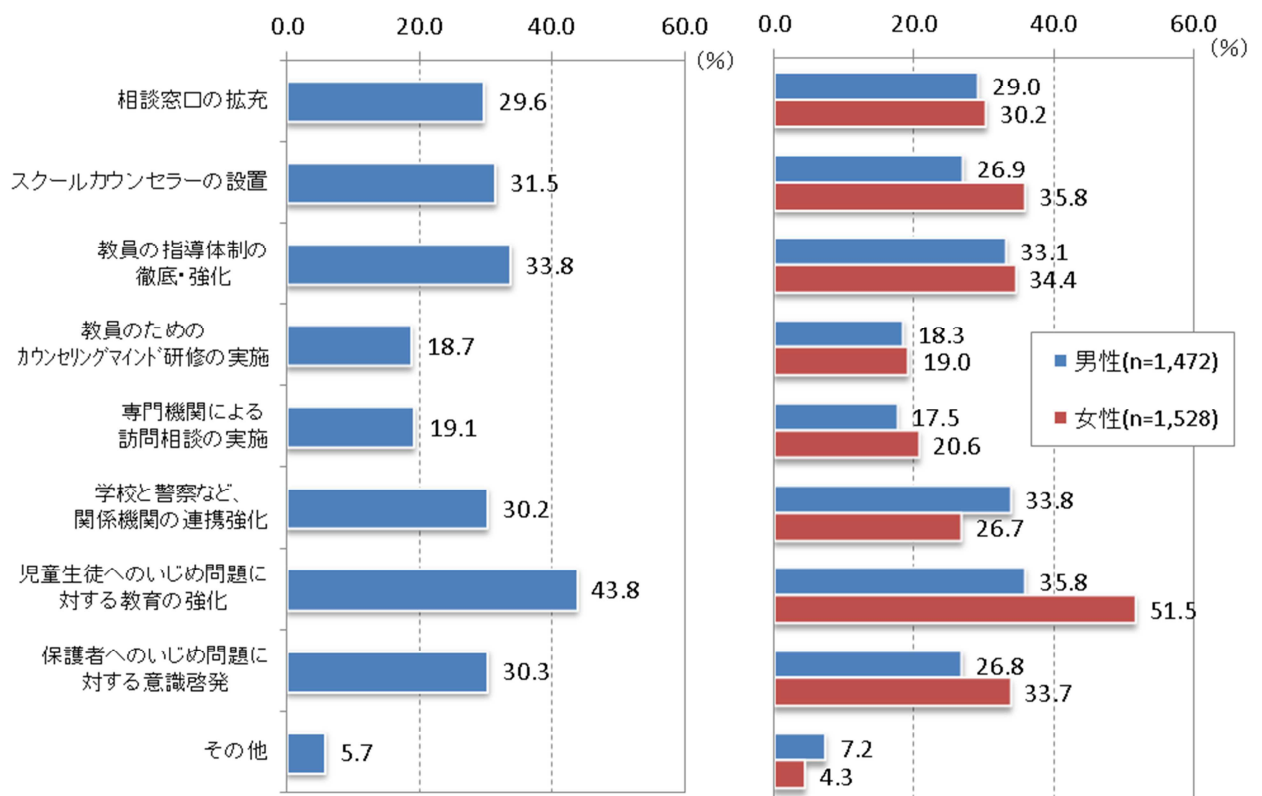
【性別】

男性は「児童生徒へのいじめ問題に対する教育の強化」が35.8%、「学校と警察など、関係機関の連携強化」が33.8%となっており、ほぼ並んで多くなっている。

女性は「児童生徒へのいじめ問題に対する教育の強化」が51.1%と半数を超えて多く、また、「スクールカウンセラーの設置」(35.8%)や「保護者へのいじめ問題に対する意識啓発」(33.7%)など男性と比べて多くなっている。

■子どものいじめ問題への対策(全員:n=3,000)

■性別にみた子どものいじめ問題への対策(全員)



問 23 安全・安心なまちづくりのために必要なこと

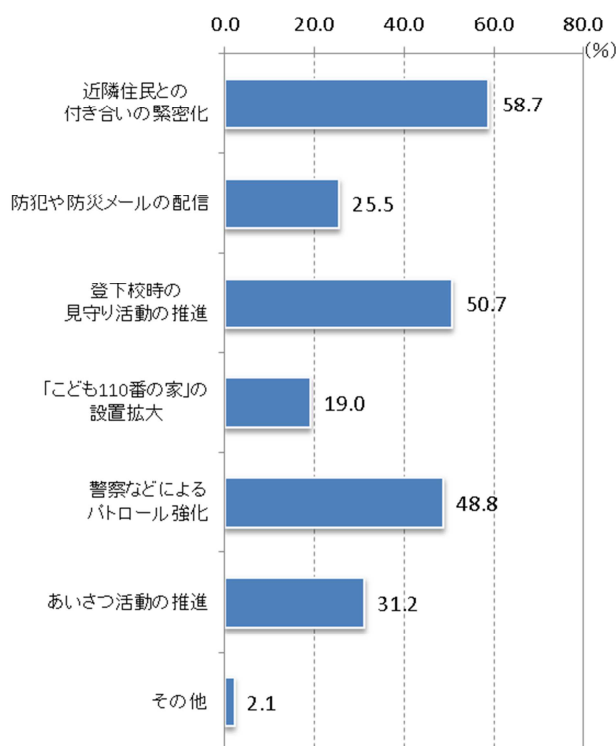
【全体】

子どもにとって安全・安心なまちづくりのために必要なことは「近隣住民との付き合いの緊密化」が58.7%と最も多く、次いで「登下校時の見守り活動の推進」が50.7%、「警察などによるパトロール強化」が48.8%と続いている。

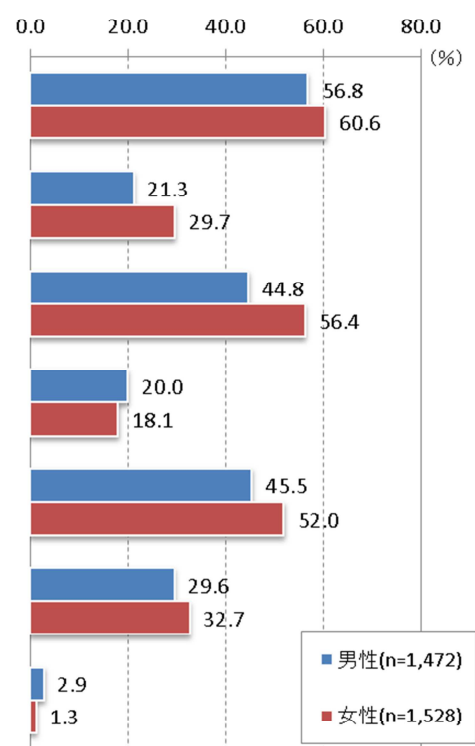
【性別】

ほぼすべての項目で女性は男性を上回っており、なかでも「登下校時の見守り活動推進」（56.4%）は男性（44.8%）より10ポイント以上多くなっている。

安全・安心なまちづくりのために必要なこと
(全員:n=3,000)



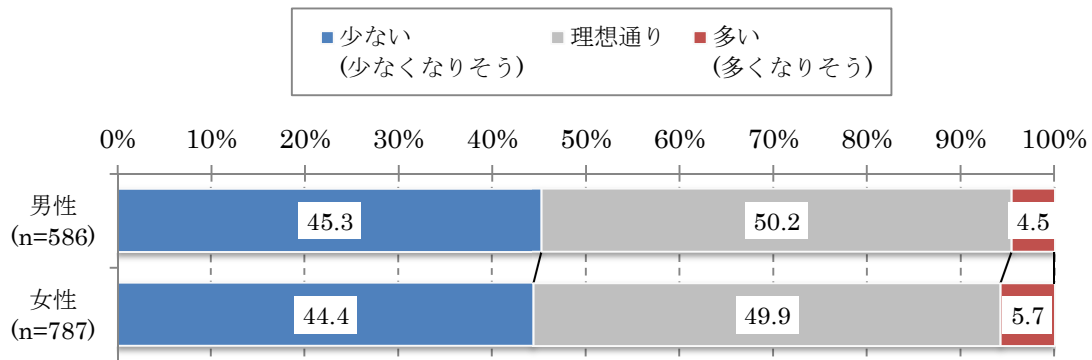
性別にみた安全・安心なまちづくりのために必要なこと(全員)



【子育てと仕事の両立について】

■問 24 理想と実際の子どもの数の差

■性別にみた理想と実際の子どもの数の差 (子どもがいる人のみ)



■問 25 理想よりも実際の子どもの数が少ない理由

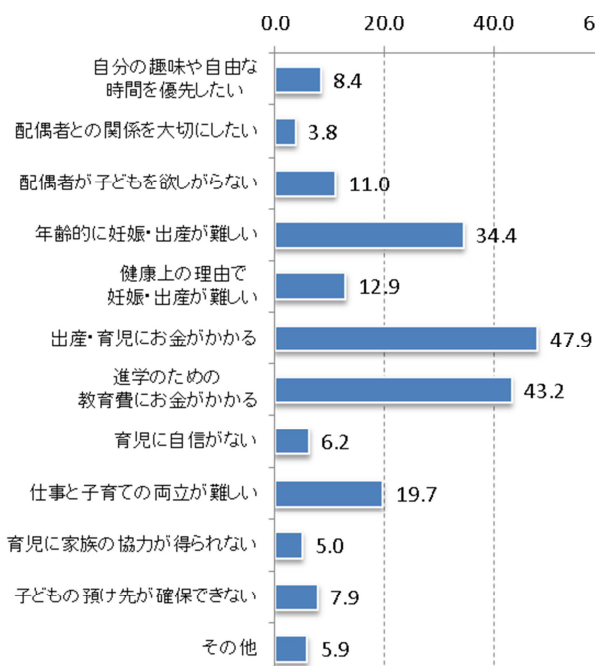
【全体】

理想よりも実際の子どもの数が少ない理由は、「出産・育児にお金がかかる」が 47.9%と最も多く、次いで「進学のための教育費にお金がかかる」が 43.2%と続いており、経済的な理由をあげている人が多い。以下、「年齢的に妊娠・出産が難しい」が 34.4%、「仕事と子育ての両立が難しい」が 19.7%、「健康上の理由で妊娠・出産が難しい」が 12.9%と続いている。

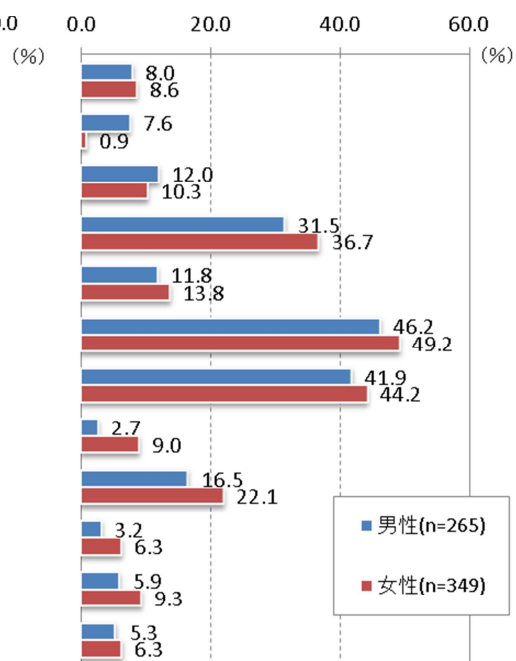
【性別】

女性は「年齢的に妊娠・出産が難しい」(36.7%)と「仕事と子育ての両立が難しい」(22.1%)が男性と比べて多くなっている。

■理想よりも子どもの数が少ない理由
(理想よりも子どもの数が少ない人のみ:n=614)



■性別にみた理想よりも子どもの数が少ない理由
(理想よりも子どもの数が少ない人のみ)



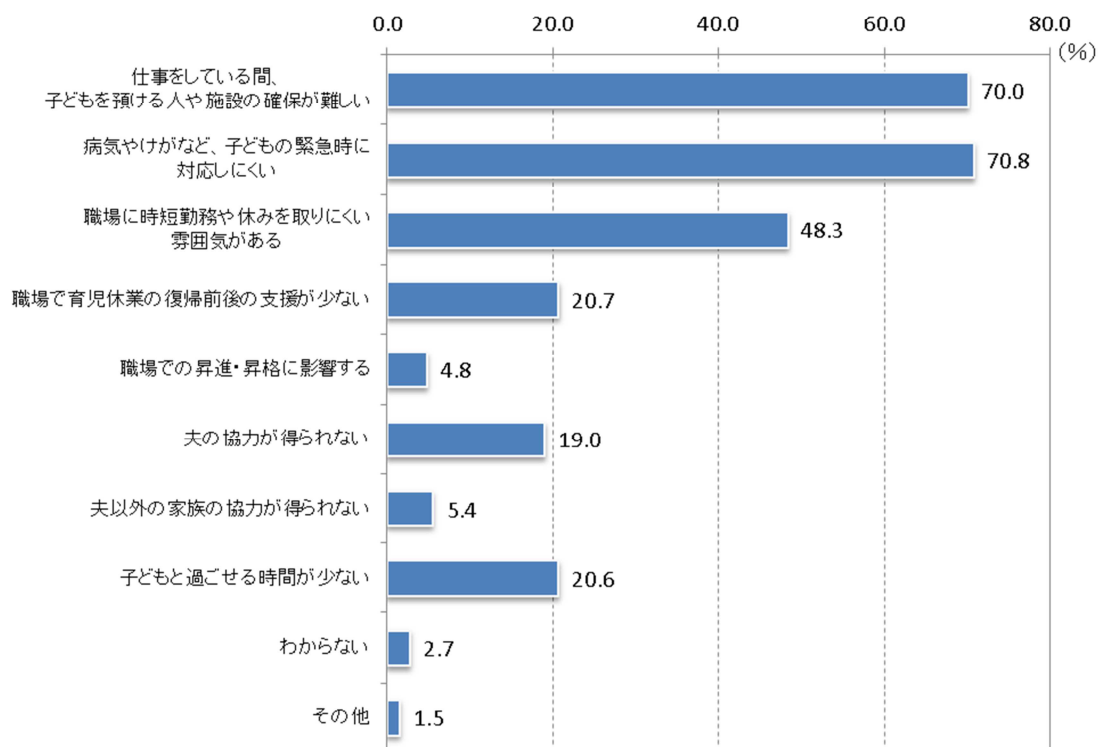
■問 26 女性が子育てをしながら働く際に困難なこと

【全体】

女性が子育てをしながら働く際に困難なことは「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」が70.8%、「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」が70.0%とほぼ並んで多くなっており、緊急時も含めた子どもの預け先について、困っている人が多くみられる。

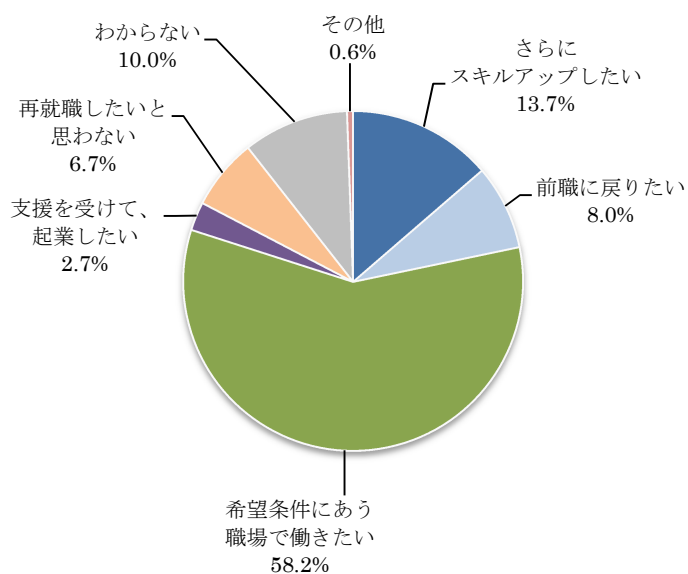
以下、「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」が48.3%、「職場で育児休業の復帰前後の支援が少ない」が20.7%、「子どもと過ごせる時間が少ない」が20.6%、「夫の協力が得られない」19.0%と続く。

■女性が子育てをしながら働く際に困難なこと(女性のみ:n=1,528)



■問 27 女性が再就職する際の理想の働き方

■女性が再就職する際の理想の働き方(女性のみ:n=1,528)



【全体】

女性が子育てをしながら再就職する際の理想の働き方は「希望条件にあう職場で働きたい」が58.2%と約6割を占めて最も多くなっている。

以下、「さらにスキルアップしたい」が13.7%、「わからない」が10.0%、「前職に戻りたい」が8.0%、「再就職したいと思わない」が6.7%、「支援を受けて、起業したい」が2.7%と続いている。

■問 28 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと

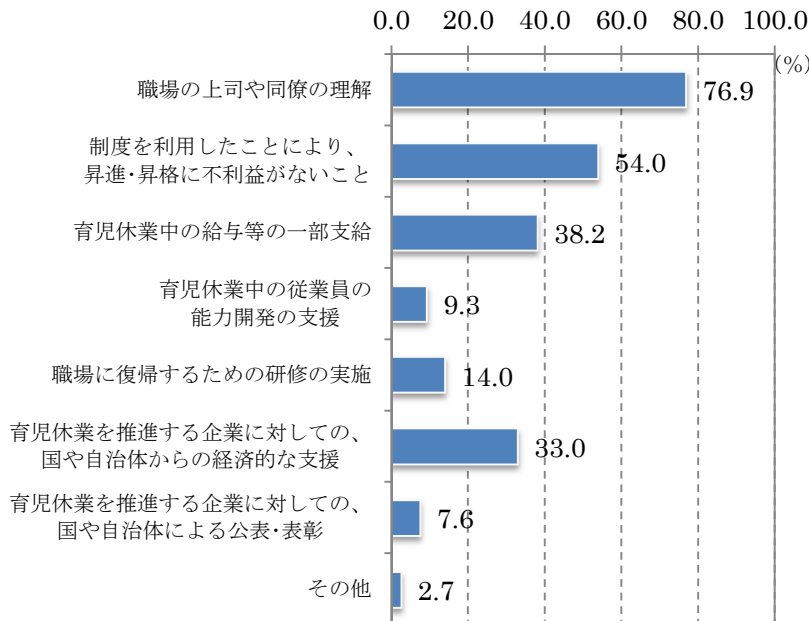
【全体】

育児休業制度を利用しやすくするために必要なこととしてあげられたのは、「職場の上司や同僚の理解」が76.9%と最も多く、以下、「制度を利用したことにより、昇進・昇格に不利益がないこと」(54.0%)、「育児休業中の給与等の一部支給」(38.2%)、「育児休業を推進する企業に対しての、国や自治体からの経済的支援」(33.0%)が続く。

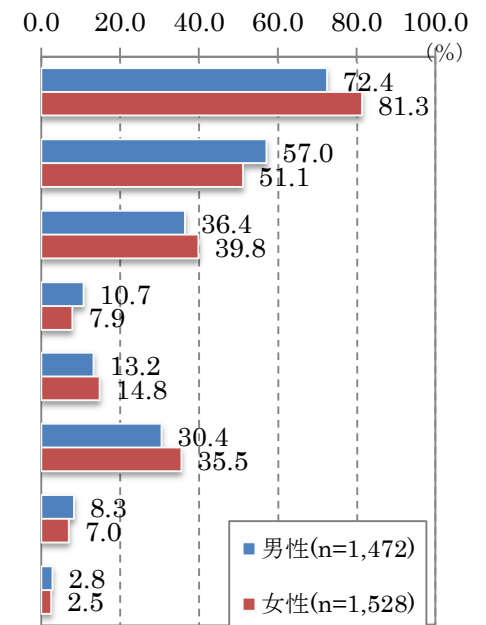
【性別】

女性は「職場の上司や同僚の理解」が81.3%と8割以上となっており、男性(72.4%)と比べて多くなっている。一方、男性は「制度を利用したことにより、昇進・昇格に不利益がないこと」が57.0%となっており、女性(51.1%)より多くなっている。

■育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと
(全員:n=3,000)



■性別にみた育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと (全員)



問 29 子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度

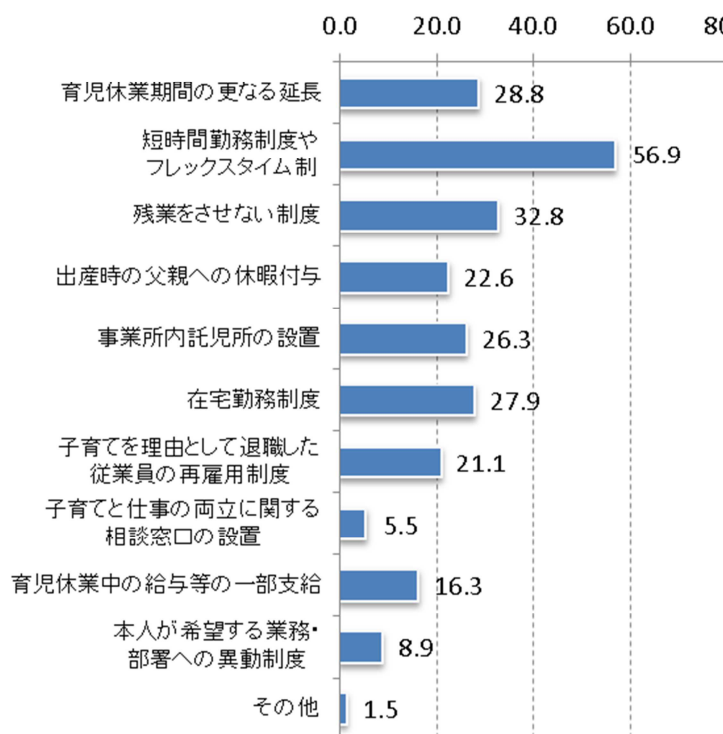
【全体】

子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度は「短時間勤務制度やフレックスタイム制」が 56.9%と半数を超えて最も多く、次いで「残業をさせない制度」が 32.8%と続いており、勤務時間に関する項目が多くなっている。以下、「育児休業期間の更なる延長」(28.8%)、「在宅勤務制度」(27.9%)、「事業所内託児所の設置」(26.3%) がほぼ並んで続いている。

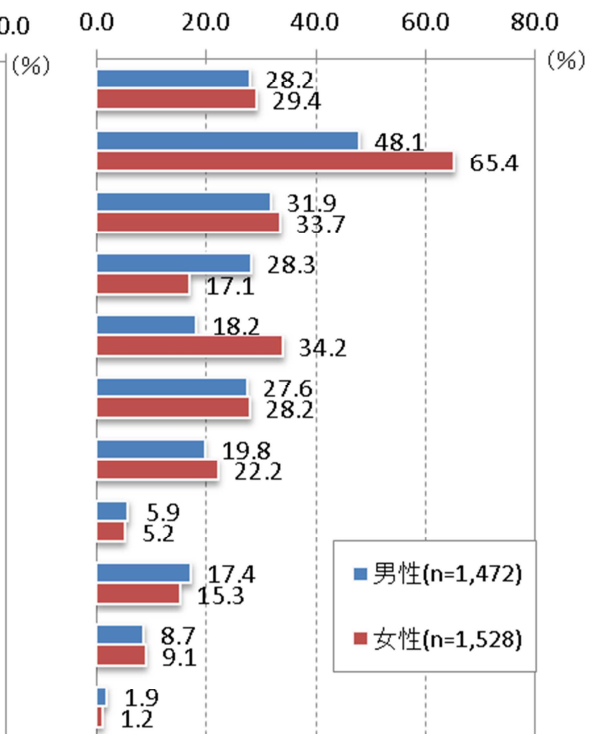
【性別】

女性は「短時間勤務制度やフレックスタイム制」(65.4%) や「事業所内託児所の設置」(34.2%) が男性よりも 15 ポイント以上多くなっている。一方、男性は「出産時の父親への休暇付与」が 28.3% となっており、女性 (17.1%) よりも 10 ポイント以上多くなっている。

■子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度
(全員:n=3,000)



■性別にみた子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度(全員)



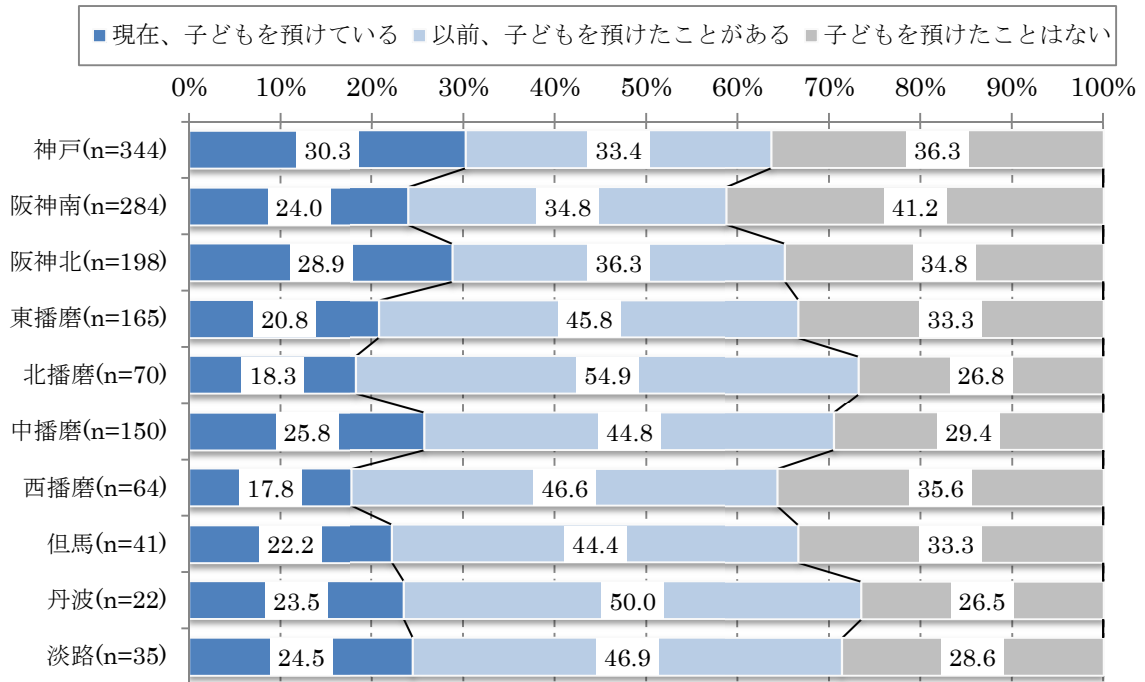
【保育施設などの利用について】

■問 30 幼稚園や保育施設の利用状況

【地域別】

神戸と阪神北は「現在、子どもを預けている」が約3割と比較的多く、阪神南では「子どもを預けたことはない」（41.2%）が4割を超え、他の地域に比べて多くなっている。

■地域別にみた幼稚園や保育施設の利用状況（子どもがいる人のみ）



■問 31 子どもを預けたことがある施設

【地域別】

- ・神戸と阪神南、阪神北では「幼稚園」が多くなっており、北播磨や中播磨、但馬、淡路では「保育所」が多くなっている。
- ・東播磨と西播磨、丹波は「幼稚園」と「保育所」がほぼ同じ割合となっている。
- ・但馬で「保育所」（91.7%）が9割以上、北播磨（82.7%）と淡路（80.0%）でも「保育所」が8割以上となっており、比較的多くなっている。
- ・神戸と阪神南、阪神北では「保育所」の利用経験は半数以下にとどまっており、比較的少なくなっている。

【職業別】

- ・正規、非正規を含む会社員・公務員や自営業・自由業は「保育所」が多くなっており、家事専業や無職は「幼稚園」が多くなっている。
- ・会社員・公務員（契約・嘱託・派遣など）は「保育所」が86.0%となっており、他の業種に比べて多くなっている。
- ・家事専業は「幼稚園」が76.4%となっており、他の業種に比べて多くなっている。

【夫婦の就業状況別】

- ・片働きは「幼稚園」が76.0%と共働き（50.2%）より多く、共働きは「保育所」が63.9%と片働き（35.4%）より多くなっている。

■地域別、職業別(子どもを預けたことがある人のみ)、夫婦の就業状況別(既婚者・子どもを預けたことがある人のみ)にみた				
子どもを預けたことがある施設		(複数回答・%)		
		幼稚園	保育所	その他の保育施設
地域別	神戸 (n=219)	57.9	49.0	11.4
	阪神南 (n=167)	66.7	41.5	10.2
	阪神北 (n=129)	67.2	38.9	9.9
	東播磨 (n=110)	58.9	55.4	8.9
	北播磨 (n=51)	51.9	82.7	7.7
	中播磨 (n=106)	50.4	64.3	12.2
	西播磨 (n=41)	61.7	57.4	8.5
	但馬 (n=28)	55.6	91.7	5.6
	丹波 (n=16)	76.0	76.0	0.0
	淡路 (n=25)	28.6	80.0	5.7
職業別	会社員・公務員 (正規社員・職員) (n=397)	54.0	59.1	7.3
	会社員・公務員 (契約・嘱託・派遣など) (n=36)	25.3	86.0	14.3
	自営業・自由業 (n=47)	48.8	65.8	17.3
	パート・アルバイト (n=160)	58.3	55.5	12.0
	家事専業 (n=241)	76.4	36.1	11.0
	無職 (n=8)	63.1	50.6	0.0
	学生 (n=1)	0.0	100.0	0.0
	その他 (n=1)	45.6	100.0	0.0
就業夫婦状況別	共働き (n=463)	50.2	63.9	10.0
	片働き (n=344)	76.0	35.3	9.2
	その他 (n=15)	70.8	41.3	6.4

■問 32 保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと

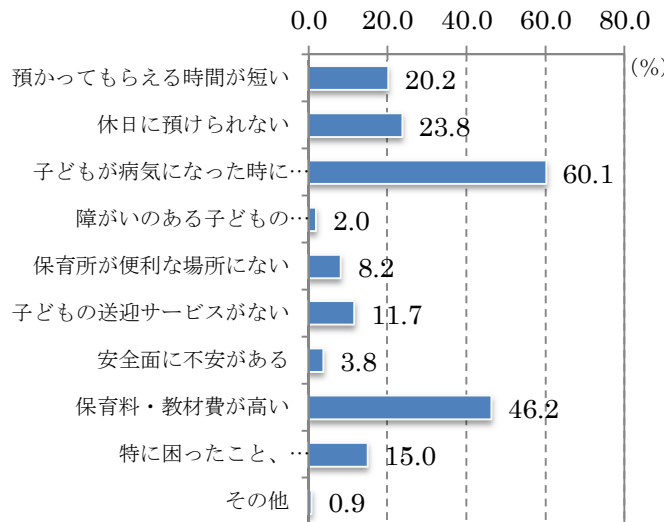
【全体】

- ・保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったことは、「子どもが病気になった時に預けられない」が60.1%と最も多く、次いで「保育料・教材費が高い」が46.2%と続く。

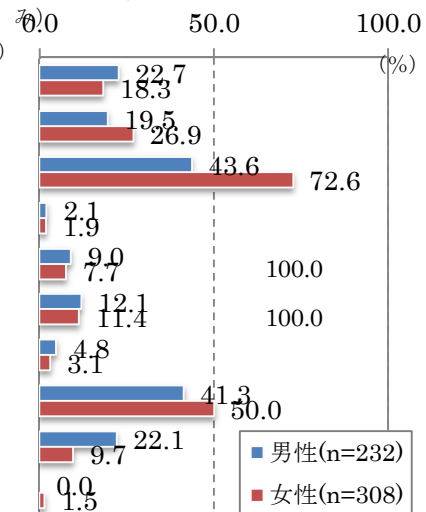
【性別】

- ・女性は「子どもが病気になった時に預けられない」が72.6%と最も多くなっており、男性（43.6%）と比べて約30ポイント多くなっている。
- ・一方、男性は「子どもが病気になった時に預けられない」（43.6%）と「保育料・教材費が高い」（41.3%）がほぼ並んで多くなっている。
- ・また、男性は「特に困ったこと、不便を感じたことはない」が22.1%となっており、多くなっている。

■保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと
(子どもを預けたことがある人のみ:n=540)



■性別にみた保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと
(子どもを預けたことがある人のみ)



【性・年代別】

- ・女性 20～30 代で「子どもが病気になった時に預けられない」と「保育料・教材費が高い」が特に多くなっている。
- ・男性は「子どもが病気になった時に預けられない」は年代の若い層ほど多くなっている。
- ・男性 20 代は「子どもの送迎サービスがない」（27.8%）や「保育所が便利な場所がない」（27.1%）が比較的多くなっている。

【地域別】

- ・阪神南で「子どもが病気になった時に預けられない」が71.2%となっており、特に多くなっている。
- ・中播磨と但馬は「子どもが病気になった時に預けられない」と「保育料・教材費が高い」がほぼ並んで多くなっている。
- ・また、淡路でも「保育料・教材費が高い」が56.7%となっており、比較的多くなっている。
- ・丹波では「休日に預けられない」が42.1%となっており、比較的多くなっている。

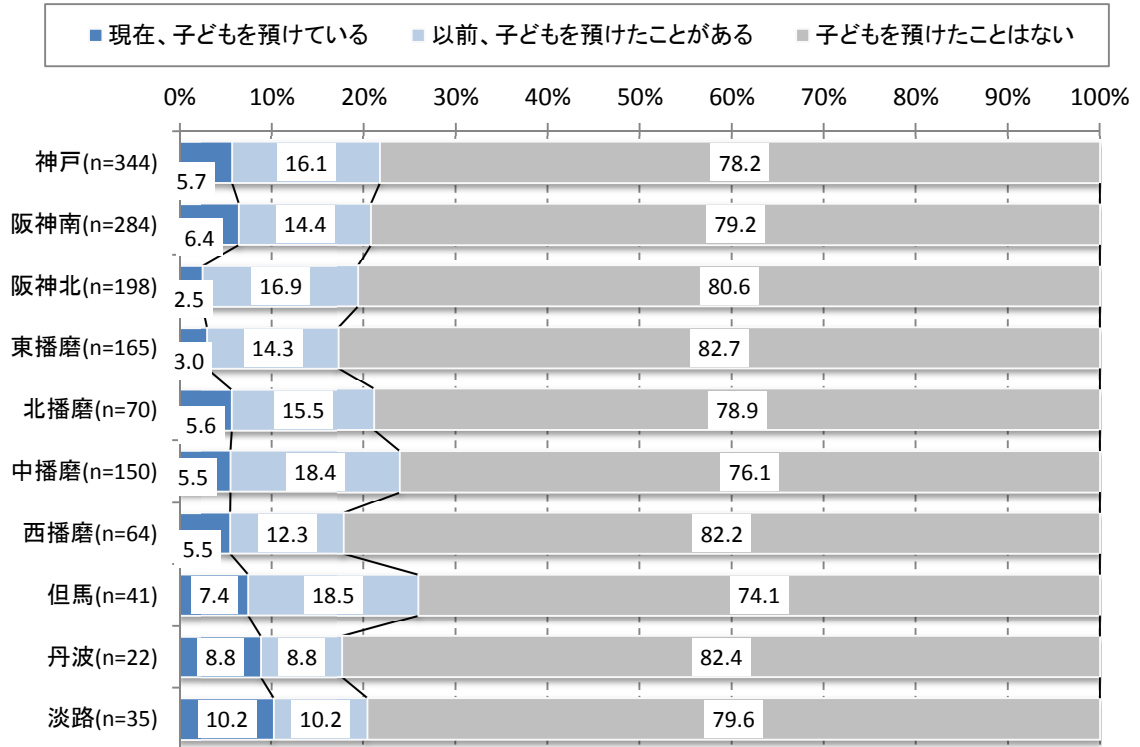
■性・年代別、地域別にみた保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと(子どもを預けたことがある人のみ)											(複数回答・%)
		預かってもらえない時間 が短い	休日に預けられない	子どもが病気になった時に 預けられない	障がいのある子どもの 受け入れ体制が整っていない	保育所が便利な場所がない	子どもの送迎サービスがない	安全面に不安がある	保育料・教材費が高い	不便を感じたこと、 特にはない	その他
性・年代別	男性-20代 (n=15)	27.8	25.4	54.6	0.0	27.1	27.8	13.2	33.2	11.5	0.0
	男性-30代 (n=95)	21.3	23.7	47.8	1.0	10.4	12.2	4.1	41.5	20.9	0.0
	男性-40代 (n=122)	23.1	15.6	39.0	3.1	5.6	9.9	4.3	42.1	24.4	0.0
	女性-20代 (n=24)	25.7	27.0	72.7	4.1	4.1	4.1	8.3	55.9	4.1	0.0
	女性-30代 (n=130)	18.4	20.9	75.7	1.4	7.9	13.6	2.8	55.8	8.7	2.0
	女性-40代 (n=153)	17.0	32.1	69.9	2.1	8.0	10.6	2.6	44.1	11.4	1.4
地域別	神戸 (n=124)	21.9	22.8	59.6	1.8	13.2	14.0	7.0	39.5	14.9	0.0
	阪神南 (n=83)	21.9	21.9	71.2	2.7	8.2	8.2	1.4	45.2	13.7	2.7
	阪神北 (n=60)	23.0	23.0	65.6	0.0	13.1	11.5	1.6	45.9	13.1	1.6
	東播磨 (n=68)	17.4	24.6	49.3	4.3	4.3	8.7	7.2	44.9	17.4	0.0
	北播磨 (n=43)	11.4	13.6	54.5	2.3	2.3	15.9	0.0	45.5	20.5	0.0
	中播磨 (n=78)	19.0	28.6	57.1	1.2	3.6	10.7	3.6	56.0	14.3	0.0
	西播磨 (n=25)	27.6	31.0	65.5	3.4	6.9	17.2	0.0	44.8	6.9	0.0
	但馬 (n=26)	23.5	23.5	55.9	0.0	8.8	5.9	2.9	52.9	23.5	0.0
	丹波 (n=12)	31.6	42.1	47.4	5.3	5.3	5.3	0.0	42.1	21.1	0.0
	淡路 (n=21)	6.7	20.0	66.7	0.0	10.0	20.0	6.7	56.7	6.7	6.7

■問 33 放課後児童クラブの利用状況

【地域別】

- ・概ねどの地域も“子どもを預けたことがある”が2割前後で「預けたことはない」は8割前後となっている。
- ・淡路は「現在、子どもを預けている」が10.2%となっており、比較的多くなっている。
- ・但馬は“子どもを預けたことがある”があわせて25.9%となっており、比較的多くなっている。
- ・東播磨や西播磨、丹波では“子どもを預けたことがある”がやや低くなっている。

■地域別にみた放課後児童クラブの利用状況(子どもがいる人のみ)



■問 34 放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと

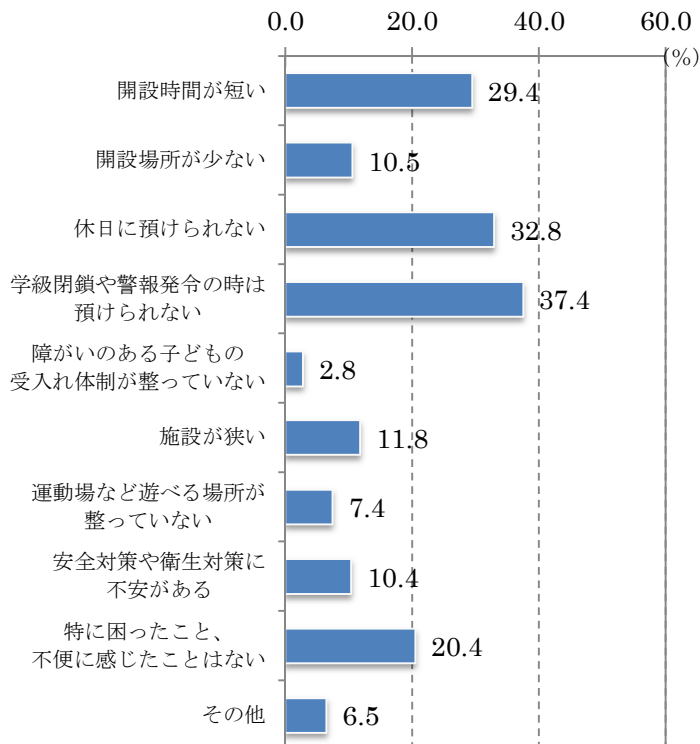
【全体】

・放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは、「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が 37.4%と最も多く、次いで「休日に預けられない」が 32.8%、「開設時間が短い」が 29.4%と続く。

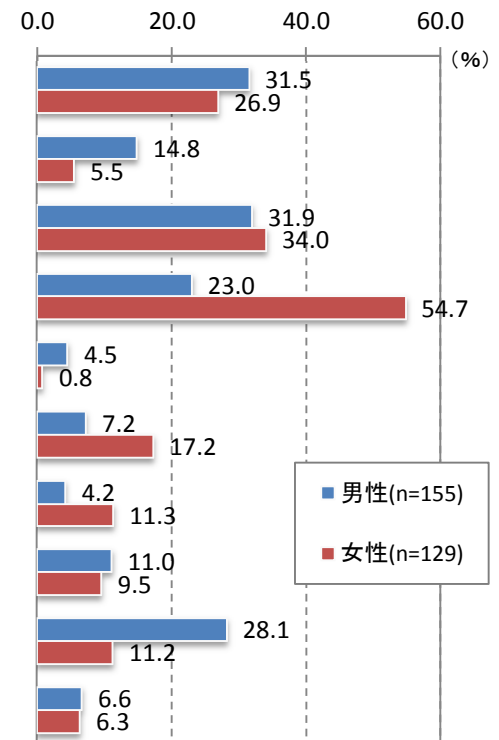
【性別】

- ・女性では「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が 54.7%と半数を超えて最も多く、また男性(23.0%)より 30 ポイント以上多くなっている。
- ・一方、男性は「休日に預けられない」が 31.9%、「開設時間が短い」が 31.5%となっており、ほぼ並んで多くなっている。
- ・また、男性は「特に困ったこと、不便に感じたことはない」が 28.1%となっており、女性(11.2%)と比べて多くなっている。

■放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと
(子どもを預けたことがある人のみ:n=285)



■性別にみた放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと(子どもを預けたことがある人のみ)



■問 35 放課後児童指導員への要望

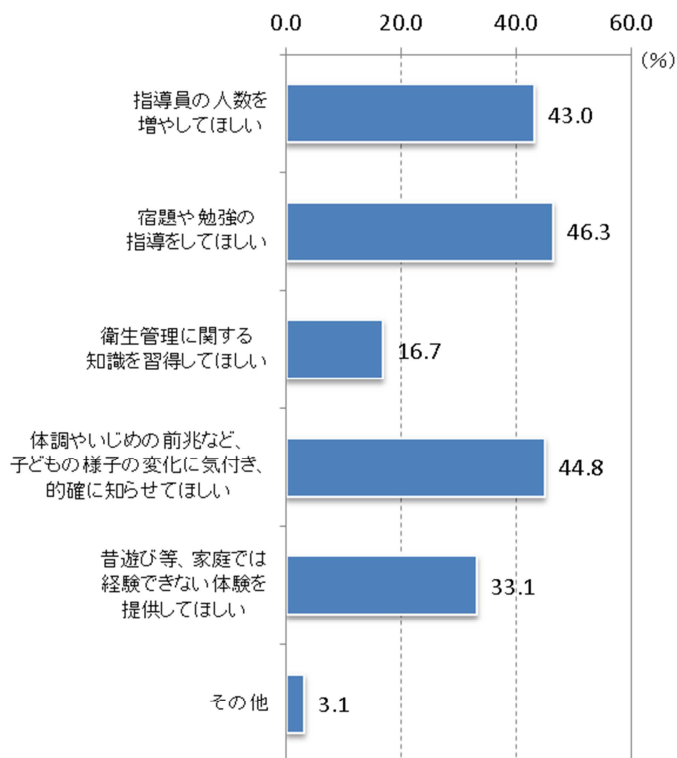
【全体】

- 放課後児童指導員への要望は「宿題や勉強の指導をしてほしい」が 46.3%、「体調やいじめの前兆など、子どもの様子の変化に気付き、的確に知らせてほしい」が 44.8%、「指導員の人数を増やしてほしい」が 43.0%となっており、ほぼ並んで多くなっている。

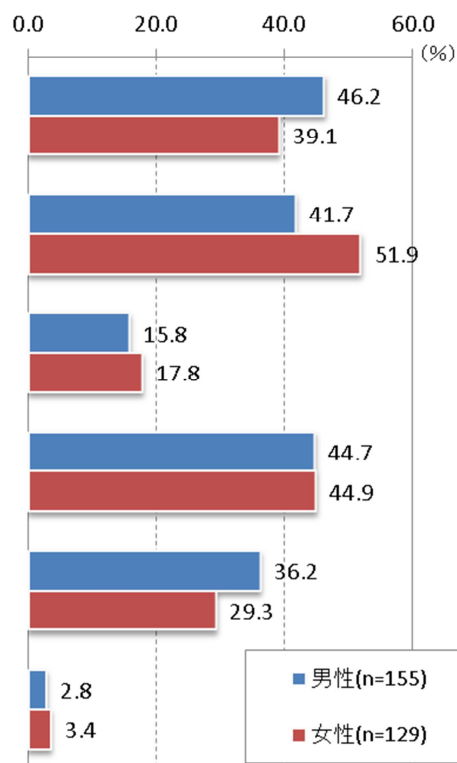
【性別】

- 男性は「指導員の人数を増やしてほしい」が 46.2%と最も多くなっている。
- また、男性は「昔遊び等、家庭では経験できない体験を提供してほしい」が 36.2%となっており、女性 (29.3%) と比べて多くなっている。
- 一方、女性は「宿題や勉強の指導をしてほしい」が 51.9%と半数を超えて最も多く、男性 (41.7%) より 10 ポイント以上多くなっている。

■放課後児童指導員への要望
(子どもを預けたことがある人のみ:n=285)



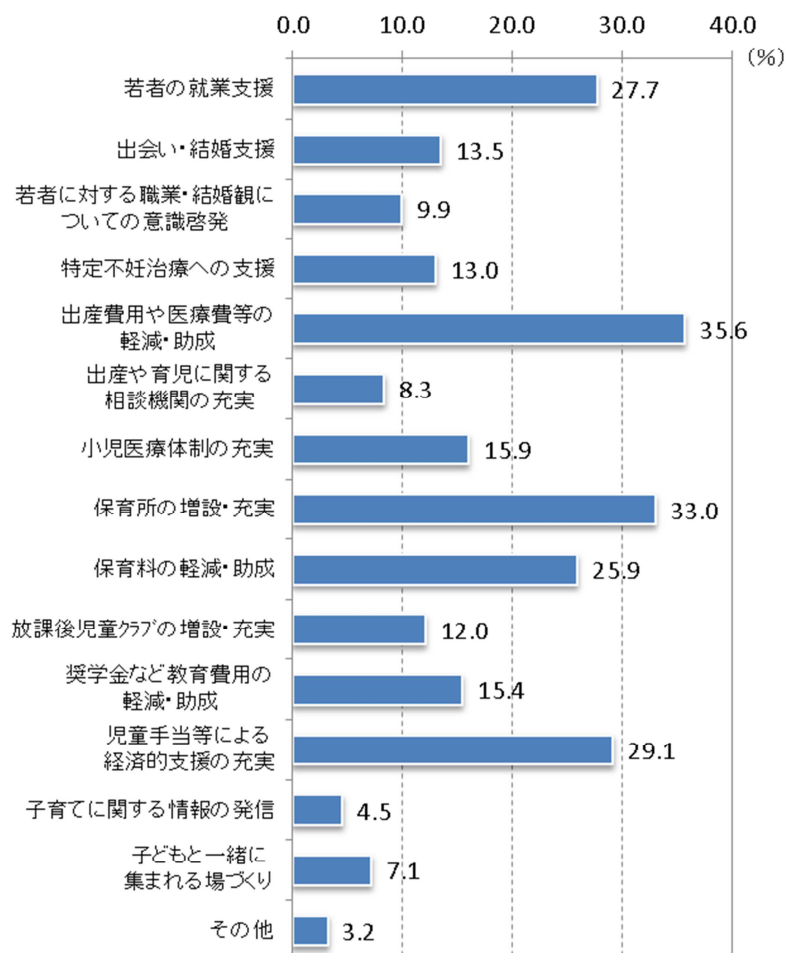
■性別にみた放課後児童指導員への要望
(子どもを預けたことがある人のみ)



【意見・要望】

■問 36 充実してほしい支援策

■充実してほしい支援策(全員:n=3,000)



・充実してほしい支援策は「出産費用や医療費等の軽減・助成」が 35.6%、「保育所の増設・充実」が 33.0%となっており、ほぼ並んで多くなっている。
 ・以下、「児童手当等による経済的支援の充実」(29.1%)、「若者の就業支援」(27.7%)、「保育料の軽減・助成」(25.9%)、「小児医療体制の充実」(15.9%)、「奨学金など教育費用の軽減・助成」(15.4%)と続く。

【性別】

- ・男性は「若者の就業支援」が33.8%と最も多く、女性（21.8%）よりも10ポイント以上多くなっている。
- ・一方、女性は「保育所の増設・充実」が39.1%、「出産費用や医療費等の軽減・助成」が38.4%とほぼ並んで多く、「保育所の増設・充実」は男性（26.7%）より10ポイント以上多くなっている。
- ・また、女性は「保育料の軽減・助成」（30.0%）や「特定不妊治療への支援」（17.0%）、「放課後児童クラブの増設・充実」（16.3%）などで男性と比べて多くなっている。

【性・年代別】

- ・男性20代は「若者の就業支援」が45.3%となっており、男性のなかでも特に多くなっている。
- ・また、男性20代は「出会い・結婚支援」が22.6%と比較的多くなっている。
- ・一方、女性20代は「出産費用や医療費等の軽減・助成」が49.9%と最も多く、他の性・年代より10ポイント以上多くなっている。
- ・女性30代は「保育料の軽減・助成」が36.5%、「特定不妊治療への支援」が20.0%となっており、比較的多くなっている。

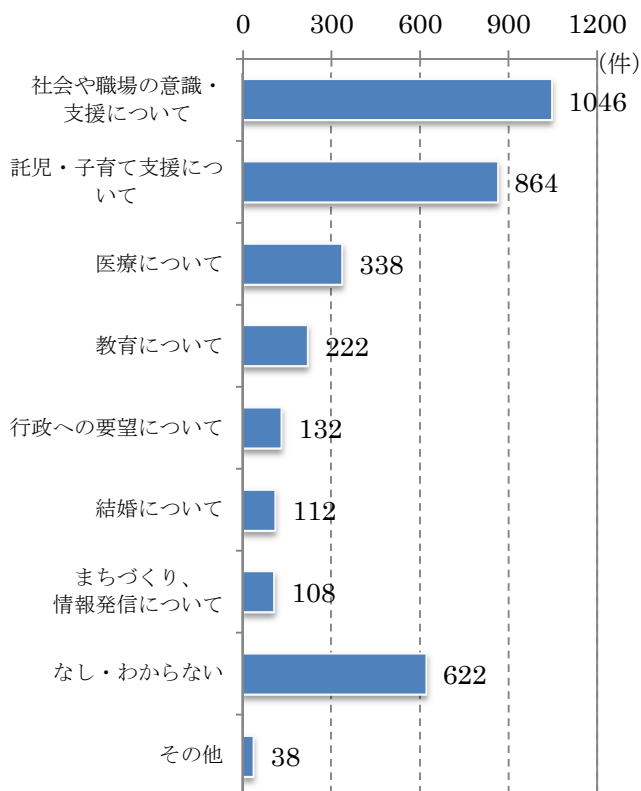
【地域別】

- ・但馬と淡路は「児童手当等による経済的支援の充実」が最も多く、但馬は36.4%、淡路では35.2%となっている。

■性別、性・年代別、地域別にみた充実してほしい支援(全員)		(複数回答・%)																			
		若者の就業支援	出会い・結婚支援	つ若者に対する職業・結婚観に	特定不妊治療への支援	軽減・助成	出産費用や医療費等の	相談機関の充実	出産や育児に関する	小児医療体制の充実	保育所の増設・充実	保育料の軽減・助成	増設・充実	放課後児童クラブの	奨学金など教育費用の	経済的支援の充実	児童手当等による	子育てに関する情報の発信	集まれる場づくり	子どもと一緒に	その他
性別	男性 (n=1,472)	33.8	17.5	12.1	8.8	32.7	8.3	12.8	26.7	21.6	7.6	16.6	28.8	4.1	7.4	4.0					
	女性 (n=1,528)	21.8	9.6	7.8	17.0	38.4	8.3	19.0	39.1	30.0	16.3	14.2	29.4	4.9	6.9	2.4					
性・年代別	男性-20代 (n=409)	45.3	22.6	14.4	6.5	31.8	9.6	7.2	24.1	19.6	6.0	18.7	22.6	3.8	9.4	2.6					
	男性-30代 (n=551)	30.7	17.2	10.2	10.6	33.5	8.7	14.4	27.6	23.1	7.6	14.6	32.1	3.6	7.3	2.9					
	男性-40代 (n=512)	27.9	13.7	12.3	8.7	32.6	6.9	15.5	27.7	21.4	8.9	17.0	30.2	4.8	5.9	6.4					
	女性-20代 (n=418)	26.1	9.5	9.5	15.6	49.9	12.7	14.5	42.2	30.8	10.2	12.4	28.6	4.0	7.5	1.9					
	女性-30代 (n=570)	17.8	10.9	6.0	20.0	38.3	5.4	19.6	40.3	36.5	18.3	10.5	30.6	6.0	6.2	2.0					
	女性-40代 (n=540)	22.6	8.5	8.5	15.0	29.7	8.1	21.9	35.3	22.5	18.9	19.6	28.8	4.5	7.1	3.3					
地域別	神戸 (n=845)	30.6	14.0	11.3	13.9	37.5	9.6	13.0	34.7	24.1	10.5	13.0	28.1	4.6	7.8	3.3					
	阪神南 (n=593)	25.1	12.1	8.6	13.4	36.2	8.0	18.0	35.6	25.3	12.3	16.7	32.0	4.8	7.3	1.5					
	阪神北 (n=399)	24.7	8.6	7.9	12.1	39.0	8.1	17.0	37.0	24.7	15.6	17.8	31.1	4.2	8.4	3.5					
	東播磨 (n=392)	27.7	16.0	9.7	14.0	31.0	7.2	12.5	32.0	24.2	13.5	15.7	25.2	6.0	5.2	4.5					
	北播磨 (n=140)	27.3	18.9	8.4	11.2	34.3	8.4	21.7	29.4	28.7	7.0	16.1	27.3	3.5	3.5	4.2					
	中播磨 (n=313)	28.9	15.0	11.8	10.6	33.3	7.4	15.9	27.1	31.3	11.5	15.0	27.7	3.5	6.2	3.8					
	西播磨 (n=131)	28.9	9.4	9.4	12.1	34.2	8.1	21.5	29.5	21.5	12.8	19.5	27.5	4.7	10.1	3.4					
	但馬 (n=76)	24.2	18.2	11.1	10.1	31.3	9.1	23.2	20.2	31.3	13.1	14.1	36.4	0.0	9.1	4.0					
	丹波 (n=49)	26.3	18.4	6.6	19.7	38.2	5.3	13.2	34.2	35.5	10.5	14.5	25.0	3.9	6.6	1.3					
淡路 (n=62)	28.4	14.8	13.6	12.5	33.0	8.0	20.5	23.9	34.1	11.4	12.5	35.2	5.7	4.5	2.3						

問 37 意見・要望【自由記載】

■意見・要望【自由回答】（全員:n=3,000）



【全体】

- ・少子化対策や子育て支援について自由回答形式で聞いたところ、『社会や職場の意識・支援について』の意見が 1,046 件と最も多く、なかには「経済的支援」（259 件）や「給付金・子ども手当の充実」（229 件）などが多くみられた。
- ・次いで『託児・子育て支援について』の意見が 864 件と多くなっており、そのうち半数以上が「託児・保育施設の増設、費用軽減」（437 件）となっている。
- ・以下、『医療について』（338 件）、『教育について』（222 件）、『行政への要望について』（132 件）、『結婚について』（112 件）、『まちづくり、情報発信について』（108 件）の意見が続いている。

◇ 結果の概要

【項目別】

1. 回答者の属性について

○ 既婚者は男性で約5割、女性では6割以上

既婚者で子どもがいない家庭は4組のうち1組。男性は「結婚している」が48.2%、女性は「結婚している」が63.3%と6割以上を占めている。

結婚している人の中で子どもが「いない」人は23.4%となっており、おおよそ4分の1を占めている。特に共働き世帯で子どもが「いない」人は26.7%となっており、片働きの世帯(19.4%)と比べて多くなっている。

○ 夫婦「共働き」の世帯が約半数

配偶者が有職者の人は、男性は6割以上、女性では9割以上。夫婦「共働き」の世帯が49.4%、夫婦のどちらかが働いている「片働き」世帯は47.5%となっており、概ね半々の割合となっている。また、配偶者が有職者の人は、男性をあわせて63.4%、女性をあわせて94.7%となっている。男性(の配偶者)は「会社員・公務員(正規社員・職員)」が34.1%、「家事専業」が32.3%となっているのに対し、女性(の配偶者)の場合、「会社員・公務員(正規社員・職員)」が79.5%と約8割を占めて最も多くなっている。

2. 結婚観・子育て観について

○ 独身者のうち、「結婚したい」人が6割、「結婚したくない」人は2割

未婚・独身でいる理由は「いい相手がみつからない」。男性を中心に「経済的な不安」もみられる。独身者のうち、「結婚したい」が38.5%、「どちらかといえば結婚したい」が25.7%となっており、あわせて64.2%が「結婚したい」と回答している。一方、「結婚したくない」(「結婚したくない」:11.7%、「どちらかといえば結婚したくない」:8.6%)はあわせて20.3%となっている。

現在、独身でいる理由は「いい相手が見つからない」(45.2%)が最も多く、以下、「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」(27.8%)と「未婚または独身の方が気楽」(25.2%)がほぼ並んで続いている。性別で見ると、「いい相手が見つからない」は特に女性に多く、51.7%と半数を超えている。一方、男性は「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」が33.8%となっており、女性(19.5%)と比べて多くなっている。

○ 「結婚」と「子育て」のイメージで共通して多いのは「責任が増す」

結婚には「安らぎ」、子育てには「自身の成長」をイメージする人も多い。結婚のイメージは「責任が増す」が46.6%と最も多く、次いで「精神的な安らぎがある」(42.4%)や「子どもを生み、育てる基盤となる」(37.1%)が続く。女性は「子どもを生み、育てる基盤となる」(47.0%)と「精神的な安らぎ」(46.2%)が並んで多い。

子育てのイメージは「責任が増す」が66.9%と最も多く、次いで「自分自身が成長する」(40.9%)、「明るく楽しい生活が送れる」(34.6%)、「育児がうまくできるか不安」(34.3%)が続く。

- 少子化の要因として、“経済的な不安”が大きく、女性では“子育てと仕事の両立の難しさ”が多い。

出産、子育てに関する支援として、“経済的支援”や“保育所等の整備”を望む声が多い。

少子化の要因は「生活費や教育費など、経済的な不安」が70.6%と最も多く、以下、「子育てと仕事の両立の難しさ」(49.4%)や「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」(40.7%)が多くなっている。また、女性は「子育てと仕事の両立の難しさ」が59.4%となっており、男性(39.1%)よりも20ポイント以上多くなっている。

出産・子育てなどに関して、不十分だと思う支援制度は「子育てへの経済的支援」が61.5%と最も多く、次いで「保育所・保育施設の整備」が57.9%と多くなっている。

3. 子どもを育てる上での課題・不安について

- 子育てに悩んだ時の相談先で多いのは、配偶者や家族・親族、友人・知人など

子どもが成長するにつれて、誰にも相談していない傾向がみられる。子どもの年齢に関わらず、子育てに悩んだ時の相談先は「配偶者」や「配偶者以外の家族や親族」、「友人・知人」が中心となっている。一方で、子どもが成長するにつれて、「配偶者」や「配偶者以外の家族や親族」、「友人・知人」の割合は減少しており、反対に「誰にも相談していない」の割合が増加している。また、「誰にも相談していない」は男性に比較的多くなっている。

4. 子育てと仕事の両立について

- 子どもがいる人のうち、子どもの数が理想よりも“少ない”と感じている人は約45% “出産や育児”、“教育”にお金がかかるといった経済的な理由をあげる人が多い。

子どもの数について、「理想通り」(50.0%)と回答した人が半数を占めて最も多く、欲しいと思っていた子どもの数よりも「少ない(少なくなりそう)」(44.8%)と回答している人も4割以上を占めている。

理想よりも実際の子どもの数が少ない理由は「出産・育児にお金がかかる」(47.9%)や「進学のための教育費にお金がかかる」(43.2%)など、経済的な理由をあげる人が多くなっている。男女とも年代の若い層ほど「出産・育児にお金がかかる」や「進学のための教育費にお金がかかる」といった経済的な理由が多くなっている。

一方、男女とも「年齢的に妊娠・出産が難しい」は年代の高い層に多く、特に女性40代では56.6%と半数を超えて最も多くなっている。

- 女性が子育てをしながら働く際に困難なことは、“子どもの緊急時の対応”や“子どもの預け先の確保”が多い。

女性が子育てをしながら働く際に困難なことは「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」が70.8%、「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」が70.0%とほぼ並んで多くなっており、緊急時も含めた子どもの預け先について、困っている人が多くみられる。

- 女性が子育てをしながら再び就職する場合、理想の働き方は、以前と違う仕事であっても、自分の「希望条件にあう職場で働きたい」と考える人が約6割

女性が子育てをしながら再就職する際の理想の働き方は「希望条件にあう職場で働きたい」が58.2%と約6割を占めて最も多く、なかでも20代後半から30代（25～29歳：62.5%、30～34歳：60.1%、35～39歳：61.8%）にかけて特に多くなっている。以下、「さらにスキルアップしたい」が13.7%、「わからない」が10.0%と続く。

- 子育てと仕事の両立のためには、「短時間勤務制度やフレックスタイム制」、「残業をさせない制度」など、“時間の融通”が利く勤務体制が必要

子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度は「短時間勤務制度やフレックスタイム制」が56.9%と半数を超えて最も多く、次いで「残業をさせない制度」が32.8%と続いており、勤務時間に関する項目が多くなっている。

また、女性では「事業所内託児所の設置」が34.2%となっており、男性(18.2%)と比べて多い。

5. 保育施設などの利用について

- 幼稚園や保育所、保育施設に“子どもを預けたことがある”人は6割以上

保育所や保育施設に子どもを預ける際に困ったことは、“子どもが病気だと預けられない”こと。

幼稚園や保育所、保育施設の利用状況をみると、「現在、子どもを預けている」が25.5%、「以前、子どもを預けたことがある」が39.5%となっており、あわせて65.0%が“子どもを預けたことがある”と回答している。一方、「子どもを預けたことはない」と回答したのは35.0%であった。

保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったことは、「子どもが病気になった時に預けられない」が60.1%と最も多く、次いで「保育料・教材費が高い」が46.2%と続く。「子どもが病気になった時に預けられない」は女性で72.6%と特に多く、男性(43.6%)より約30ポイント多くなっている。

- 放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は2割

放課後児童クラブでは学級閉鎖や警報発令時、休日に預けられないことに不便さを感じている人が多い。

放課後児童クラブの利用状況をみると、「現在、子どもを預けている」が5.2%、「以前、子どもを預けたことがある」が15.5%となっており、あわせて20.7%が“子どもを預けたことがある”と回答している。

放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは、「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が37.4%と最も多く、次いで「休日に預けられない」が32.8%、「開設時間が短い」が29.4%と続く。女性では「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が54.7%と半数を超えて最も多く、男性(23.0%)より30ポイント以上多くなっている。一方で、男性は「特に困ったこと、不便に感じたことはない」が28.1%となっており、女性(11.2%)と比べて多くなっている。

6. 意見・要望

- 充実してほしい支援策として、「出産費用や医療費等の軽減・助成」と「保育所の増設・充実」を望む声が女性を中心に多い。一方で、男性は「若者の就業支援」が20代を中心に多くみられる。

充実してほしい支援策は「出産費用や医療費等の軽減・助成」が35.6%、「保育所の増設・充実」が33.0%となっており、ほぼ並んで多くなっている。男性は「若者の就業支援」が33.8%と最も多く、女性(21.8%)よりも10ポイント以上多くなっている。一方、女性は「保育所の増設・充実」が39.1%、「出産費用や医療費等の軽減・助成」が38.4%とほぼ並んで多く、「保育所の増設・充実」は男性(26.7%)より10ポイント以上多くなっている。

【地域別】

地域	概況
神戸	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「生活費や教育費など、経済的な不安」(69.1%)や「子育てと仕事の両立の難しさ」(48.7%)があげられている。 ・子育てで今後負担になりそうな費用は、「教育費」(77.6%)が約8割と比較的が多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は46.7%。 ・女性が子育てをしながら働く際に困難ことは、「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」(71.2%)が最も多く、7割を超える。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は63.7%。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が57.9%、保育所が49.0%となっており、幼稚園の方が多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は21.8%。 ・放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」(44.9%)が4割以上となっており、最も多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」(37.5%)や「保育所の増設・充実」(34.7%)、「若者の就業支援」(30.6%)が比較的多い。
阪神南	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「生活費や教育費など、経済的な不安」(73.9%)が比較的多い。 ・子育てで今後負担になりそうな費用は、「教育費」(78.4%)が多く、約8割となっている。

<p>阪神南</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理想よりも子どもの数が「少ない (少なくなりそう)」と感じている人は 49.6% と約半数。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は 58.8% と他の地域に比べて少ない。 ・そのうち預けたことがある施設（複数回答可）は、幼稚園が 66.7%、保育所が 41.5% となっており、幼稚園の方が多い。 ・子どもを保育施設に預けた際に困ったことは、「子どもが病気になった時に預けられない」（71.2%）が 7 割以上となっており、他の地域に比べて多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は 20.8%。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育所の増設・充実」（35.6%）や「児童手当等による経済的支援の充実」（32.0%）が比較的多い。
<p>阪神北</p>	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「生活費や教育費など、経済的な不安」（74.1%）が他の地域に比べて多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない (少なくなりそう)」と感じている人は 43.8%。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「出産・育児にお金がかかる」（58.0%）が約 6 割と比較的多い。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に「現在、子どもを預けている」人 28.9% が約 3 割と比較的多い。 ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は 65.2%。 ・そのうち預けたことがある施設（複数回答可）は、幼稚園が 67.2%、保育所が 38.9% となっており、幼稚園の方が多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は 19.4%。 ・放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは、「休日に預けられない」が 46.2% と最も多い。 ・放課後児童指導員への要望は、「指導員の人数を増やしてほしい」が 56.4% と比較的多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」（39.0%）や「保育所の増設・充実」（37.0%）が他の地域に比べて多い。

東播磨	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「生活費や教育費など、経済的な不安」(69.5%)や「子育てと仕事の両立の難しさ」(52.2%)が多くあげられている。 ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は41.1%。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は66.6%。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が58.9%、保育所が55.4%となっており、ほぼ同じ割合。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人が17.3%となっており、比較的少ない。 ・放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは、「開設時間が短い」が34.5%と最も多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育所の増設・充実」(32.0%)や「出産費用や医療費等の軽減・助成」(31.0%)が多い。
北播磨	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身者のうち、「結婚したい」(43.8%)人が4割以上を占めており、他の地域よりも多くなっている。 ・未婚・独身でいる理由として、「いい相手が見つからない」(54.7%)が多く、半数以上となっている。 ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は36.6%と比較的少ない。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「進学のための教育費にお金がかかる」(50.0%)や「出産・育児にお金がかかる」(38.5%)、「年齢的に妊娠・出産が難しい」(34.6%)などが多くあげられている。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は73.2%と比較的多い。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が51.9%、保育所が82.7%となっており、保育所の方が多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は21.1%。 ・放課後児童指導員への要望は、「体調やいじめの前兆など、子どもの様子の変化に気付き、的確に知らせてほしい」が60.0%となっており、他の地域に比べて多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」(34.3%)が最も多く、また「小児医療体制の充実」(21.7%)が比較的多い。

<p>中播磨</p>	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は41.7%。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は70.6%と比較的多い。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が50.4%、保育所が64.3%となっており、保育所の方が多い。 ・子どもを保育施設に預けた際に困ったことは、「保育料・教材費が高い」が56.0%と比較的多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は23.9%。 ・放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったことは、「開設時間が短い」が43.6%と最も多く、また「施設が狭い」も25.6%と他の地域に比べて多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」(33.3%)や「保育料の軽減・助成」(31.3%)が多い。
<p>西播磨</p>	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「結婚や子育てに関する意識・価値観の多様化」が50.3%と半数を超えており、他の地域に比べて多い。 ・今後負担になりそうな費用として、「大学等の進学に伴う仕送り」(41.1%)が4割と比較的多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は34.2%と他の地域に比べて少ない。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「進学のための教育費にお金がかかる」や「出産・育児にお金がかかる」(ともに52.0%)が多くあげられている。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は64.4%と比較的少ない。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が61.7%、保育所が57.4%となっており、ほぼ同じ割合。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は17.8%と比較的少ない。 ・放課後児童指導員への要望は、「指導員の人数を増やしてほしい」が76.9%となっており、他の地域に比べて多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」(34.2%)が最も多く、また「小児医療体制の充実」(21.5%)が比較的多い。

<p>但馬</p>	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未婚者のうち、“結婚したい”（52.5%）人が半数程度にとどまっており、「わからない」が25.0%と比較的多い。 ・未婚・独身でいる理由として、「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」が40.0%と最も多くなっている。 ・少子化の要因として、「子育てと仕事の両立の難しさ」が58.6%と他の地域に比べて多い。 ・子育てで今後負担になりそうな費用は、「教育費」（79.6%）が約8割と他の地域に比べて多く、また「大学等の進学に伴う仕送り」（40.7%）も4割と比較的多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない（少なくなりそう）」と感じている人は61.1%となっており、他の地域に比べて多い。 ・女性が子育てをしながら働く際に困難ことは、「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」（78.8%）が最も多く、約8割となっている。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は66.6%。 ・そのうち預けたことがある施設（複数回答可）は、幼稚園が55.6%、保育所が91.7%となっており、保育所の方が多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は25.9%となっており、他の地域に比べて多い。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童手当等による経済的支援の充実」（36.4%）や「保育料の軽減・助成」（31.3%）、「小児医療体制の充実」（23.2%）が他の地域に比べて多い。
<p>丹波</p>	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因として、「子育てと仕事の両立の難しさ」が56.6%と比較的多い。 ・子育てにかかる費用として、現在、「教育費」に負担を感じている人が多く、今後も「教育費」が負担になりそうだと感じている人が多い。また、今後負担になりそうな費用として、「大学等の進学に伴う仕送り」（47.1%）も比較的多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない（少なくなりそう）」と感じている人は38.2%と比較的少ない。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「年齢的に妊娠・出産が難しい」が53.8%が半数を超えて最も多い。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は73.5%となっており、他の地域に比べて多い。

丹 波	<ul style="list-style-type: none"> ・そのうち預けたことがある施設（複数回答可）は、幼稚園が76.0%、保育所が76.0%となっており、同じ割合。 ・子どもを保育施設に預けた際に困ったことは、「休日に預けられない」（42.1%）や「預かってもらえる時間が短い」（31.6%）が他の地域に比べて多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人が17.6%となっており、比較的少ない。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産費用や医療費等の軽減・助成」（38.2%）や「保育料の軽減・助成」（35.5%）が多い。
淡 路	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身者のうち、未婚・独身でいる理由として「いい相手が見つからない」が75.0%となっており、他の地域に比べて多い。 ・今後負担になりそうな費用として、「大学等の進学に伴う仕送り」40.8%が比較的多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない（少なくなりそう）」と感じている人は42.9%。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「出産・育児にお金がかかる」（71.4%）が7割以上と多く、また「進学のための教育費にお金がかかる」（57.1%）も約6割と他の地域に比べて多い。 ・女性が子育てをしながら働く際に困難ことは、「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」（77.8%）が最も多く、約8割となっている。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は71.4%と比較的多い。 ・そのうち預けたことがある施設（複数回答可）は、幼稚園が28.6%、保育所が80.0%となっており、保育所の方が多い。 ・子どもを保育施設に預けた際に困ったことは、「保育料・教材費が高い」が56.7%と他の地域に比べて多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は20.4%。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童手当等による経済的支援の充実」（35.2%）や「保育料の軽減・助成」（34.1%）が比較的多い。

淡 路	<p>【結婚・子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身者のうち、未婚・独身でいる理由として「いい相手が見つからない」が75.0%となっており、他の地域に比べて多い。 ・今後負担になりそうな費用として、「大学等の進学に伴う仕送り」40.8%が比較的多い。 ・理想よりも子どもの数が「少ない(少なくなりそう)」と感じている人は42.9%。 ・理想よりも子どもの数が少ない理由として、「出産・育児にお金がかかる」(71.4%)が7割以上と多く、また「進学のための教育費にお金がかかる」(57.1%)も約6割と他の地域に比べて多い。 ・女性が子育てをしながら働く際に困難ことは、「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」(77.8%)が最も多く、約8割となっている。 <p>【保育施設などの利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育施設に“子どもを預けたことがある”人は71.4%と比較的多い。 ・そのうち預けたことがある施設(複数回答可)は、幼稚園が28.6%、保育所が80.0%となっており、保育所の方が多い。 ・子どもを保育施設に預けた際に困ったことは、「保育料・教材費が高い」が56.7%と他の地域に比べて多い。 ・放課後児童クラブに“子どもを預けたことがある”人は20.4%。 <p>【充実してほしい支援策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童手当等による経済的支援の充実」(35.2%)や「保育料の軽減・助成」(34.1%)が比較的多い。
-----	---